

KONAN



KONAN 90th ANNIVERSARY

平成21年度 事業報告書

平成21年4月1日～平成22年3月31日まで

学校法人 **甲南学園**

甲南大学 甲南高等学校 甲南中学校

CONTENTS

はじめに

1

- はじめに
- 甲南学園のあゆみ
- 甲南学園の構成

I 事業の概要

3

- ハイライト 3
 - 01 理工学部の再編、新学部の開設
 - 02 学園創立90周年記念事業募金
 - 03 六甲アイランド総合体育施設の整備
 - 04 戦略プロジェクト「先端生命工学研究所」、
「法科大学院」の展開
 - 05 甲南平生国際フォーラムを開催
 - 06 特徴ある広報活動
- 大学・大学院 7
- 高等学校・中学校 13
- 法人 14

II 財務の概要

15

- 平成21年度決算の概要
- 資金収支決算の概要
- 消費収支決算の概要
- 平成20年度決算・平成21年度予算及び決算の比較
- 資金収支計算書(学園総括)
- 消費収支計算書(学園総括)
- 消費収支決算(部門別内訳)・構成比率
- 貸借対照表
- 消費収支決算の推移(学園総括)
- 財務状況の推移(学園総括)
- 財務比率の推移(学園総括)

III 法人の概要

23

- 名称
- 法人設立の年月日
- 設置学校
- 役員
- 土地と建物
- 専任教職員数
- 学生・生徒数
- 卒業生累計数
- 事務組織図

はじめに

甲南学園は平成21年4月21日に学園創立90周年を迎えました。この記念すべき年に新学部「マネジメント創造学部」を西宮キャンパスに、「フロンティアサイエンス学部・同研究科」をポートアイランドキャンパスに開設し、甲南の追求すべき平生の夢「甲南100年の計」を実現するための一歩を踏み出しました。また、4年目となった「学園創立90周年記念事業募金」では経済情勢が急速に悪化し、底の見えない大不況への軌跡をたどりつつあるなかであるにも拘わらず、多方面からお励ましのご芳志を賜り、教育の一段の活性化のため活用させていただいております。本学園はこの環境変化を構造的な適応を図るための重点化策に取組む好機ととらえ、この数年で確立した財務体質を維持しつつ、高まる教育の質向上への要求に応えるために、中期経営計画事業を着実に実行し、甲南学園 the Second Century を展望するとともに全学園を挙げて「人物教育率先」の教育を推進してまいります。

皆様におかれましては、今後とも格別のご理解とご支援を賜りますよう切にお願い申し上げます。

中期経営計画(平成18年度～平成22年度)

■ 大学関係

- ①「人物教育率先」に基づき、今、大学教育に求められている質に先駆的に挑戦する新学部の開設
 - 知能情報学部開設及び理工学部再編
 - 平生鈞三郎記念「マネジメント創造学部」甲南CUBE西宮開設
 - FIBER(先端生命工学研究所)がリードするFIRST「フロンティアサイエンス学部・フロンティアサイエンス研究科」甲南FAMEポートアイランド開設
- ②特色ある甲南教育プログラムの推進
- ③「甲南90周年栄誉スカラシップ」など奨学金・表彰制度の充実
- ④独創性溢れる研究・社会貢献・地域連携活動の展開
- ⑤学生生活の質を高める環境整備

■ 高等学校・中学校関係

- ①平生精神をバックボーンとする中高6年一貫(2-2-2、基礎・応用・発展)の教育システムの構築
- ②日常の学習意欲喚起の体制づくり
- ③スポーツなど課外活動の活性化による徳・体・知力の増進
- ④海外提携校との交換留学・交流活動による国際感覚の涵養
- ⑤教員組織の教育力の増進

■ 法人関係

- ①経営基盤整備
 - 中期経営計画遂行のための学園資金計画(新学部の完成年度までを含む)の策定及びその実行
 - 各年度予算策定における長期的ガイドラインの再確認
 - 事務組織体制の活性化
- ②「個性を力へ。」を標語とする学園の戦略的広報活動の展開
- ③学園創立90周年記念事業(「人物教育率先」創業者平生鈞三郎記念教育振興、六甲アイランド総合体育施設整備、高等学校・中学校新体育館整備)募金の展開

甲南学園のあゆみ



学園創立者
平生鈞三郎

平生鈞三郎は、1866年武門に生まれ、東京海上火災保険をはじめとする損害保険業界の近代化に貢献、川崎造船所を再建するなど実業界で広く活躍しました。甲南病院の設立など社会事業にも深く関わり、政治においては、広田内閣の文部大臣として義務教育の年限延長、師範教育の改善を強く提唱しました。教育理念として、「人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重し、各人の天賦の特性を伸張させる」を掲げ、甲南中学校、さらに7年制の甲南高等学校を創立しました。

学園創立90周年記念式典を挙行

平成21年4月21日、本学園が90周年を迎えたことを記念して、神戸ポートピアホテルの「ポートピアホール」において、創立90周年記念式典を挙行しました。

会場には、来賓、招待者、教職員ら約700人が参加し、学園の歩みを振り返るとともに新たな門出を祝いました。



学園創立90周年記念式典

と述べています。

学園90周年記念式典式辞で、述べましたように「甲南建学精神八九〇年ヲヘタ今日、キタルベキ甲南新世紀へ、ナガク、ツヨクモチツツケタイ。」

本学園は、今後もこの気概と品格ある平生精神をもとに、教育・研究の質を高め、本学園の社会的使命を達成することを目指しています。

高等学校第一回卒業式／1926（大正15）年

知的教育ヲ施サン」トノ主旨ヲ以テ創立イタシマシタ

本校、学校教育ノ現状ニ満足セザル有志ノ者共ガ集マツテ、知育偏重ノ弊ヲ避ケ、「人格ノ修養」「健康ノ増進」ヲ第一義トシ、「個性ヲ尊重シテ天賦ノ特性ヲ啓発スベク、

甲南大学、甲南高等学校・中学校を設置する甲南学園は、1919（大正8）年の旧制甲南中学校の設立にさかのぼります。甲南を支える大きな精神的支柱である創立者の平生飢三郎先生は、



学校法人甲南学園
理事長 吉沢英成

甲南学園の構成

設置する学校・学部・大学院等（平成22年3月31日現在）

甲南学園

甲南大学・大学院

学部 学科	文学部	<input type="checkbox"/> 日本語日文学科 <input type="checkbox"/> 社会学科 <input type="checkbox"/> 歴史文化学科	<input type="checkbox"/> 英語英米文学科 <input type="checkbox"/> 人間科学科	
	理工学部	<input type="checkbox"/> 物理学科 <input type="checkbox"/> 機能分子化学科	<input type="checkbox"/> 生物学科	
	経済学部	<input type="checkbox"/> 経済学科		
	法学部	<input type="checkbox"/> 法学科	<input type="checkbox"/> EBA総合コース	
	経営学部	<input type="checkbox"/> 経営学科		
	知能情報学部	<input type="checkbox"/> 知能情報学科		
	マネジメント創造学部	<input type="checkbox"/> マネジメント創造学科		
	フロンティアサイエンス学部	<input type="checkbox"/> 生命化学科		
	大学院	人文科学研究科	修士課程 <input type="checkbox"/> 日本語日文学専攻 <input type="checkbox"/> 英語英米文学専攻 <input type="checkbox"/> 応用社会学専攻 <input type="checkbox"/> 人間科学専攻	博士後期課程 <input type="checkbox"/> 日本語日文学専攻 <input type="checkbox"/> 英語英米文学専攻 <input type="checkbox"/> 応用社会学専攻 <input type="checkbox"/> 人間科学専攻
		自然科学研究科	<input type="checkbox"/> 物理学専攻 <input type="checkbox"/> 化学専攻 <input type="checkbox"/> 生物学専攻 <input type="checkbox"/> 情報システム工学専攻	<input type="checkbox"/> 物理学専攻 <input type="checkbox"/> 生命・機能科学専攻 <input type="checkbox"/> 情報システム工学専攻
社会科学研究科		<input type="checkbox"/> 経済学専攻 <input type="checkbox"/> 経営学専攻	<input type="checkbox"/> 経営学専攻	
フロンティアサイエンス研究科		<input type="checkbox"/> 生命化学専攻	<input type="checkbox"/> 生命化学専攻	

専門職 大学院	法学研究科	<input type="checkbox"/> 法務専攻（法科大学院）	
	ビジネス研究科	<input type="checkbox"/> 会計専攻（会計大学院）	
センター 研究所 図書館	<input type="checkbox"/> 国際言語文化センター	<input type="checkbox"/> スポーツ健康科学教育研究センター	<input type="checkbox"/> EBA高等教育研究所
	<input type="checkbox"/> キャリアセンター	<input type="checkbox"/> 図書館	<input type="checkbox"/> 広域副専攻センター
	<input type="checkbox"/> 先端生命工学研究所	<input type="checkbox"/> 情報教育研究センター	<input type="checkbox"/> 教職教育センター
	<input type="checkbox"/> 国際交流センター	<input type="checkbox"/> カウンセリングセンター	<input type="checkbox"/> サイバーライブラリ
	<input type="checkbox"/> フロンティア研究推進機構	<input type="checkbox"/> 総合研究所	<input type="checkbox"/> 人間科学研究所
	<input type="checkbox"/> ビジネスイノベーション研究所	<input type="checkbox"/> 企業法務研究所	

甲南高等学校・中学校

甲南学園が設置母体の在外教育機関（フランス）

フランス甲南学園トゥレーヌ

高等部

個性尊重の理念を掲げて開学。90年余にわたり、その独自の教育を深め、確立してきました。

2009年に
創立90周年を
迎えた甲南学園

1918 財団法人甲南学園
私立甲南中学校設立認可

1919 私立甲南中学校開校

1923 7年制甲南高等学校開校

1948 新制甲南高等学校に移行

1951 甲南大学設置認可、甲南大学開学
文理学部設置

1952 経済学部増設

1957 文理学部を文学部と理学部に分離

1960 法学部・経営学部増設

1963 甲南高等学校・中学校が岡本から
芦屋市に移転

1964 大学院人文科学研究科、
自然科学研究科設置

1965 大学院社会科学研究科開設

1991 トゥレーヌ甲南学園
（現フランス甲南学園トゥレーヌ）
高等部・中等部を開校

2001 理学部を理工学部に名称変更

2002 経済学部・経営学部にEBA総合コースを開設

2003 先端生命工学研究所設置

2004 大学院法学研究科（法科大学院）設置

2006 大学院ビジネス研究科（会計大学院）増設

2008 知能情報学部増設

2009 マネジメント創造学部増設（西宮キャンパス新設）
先端生命工学研究所移設・フロンティアサイエ
ンス学部・同研究科増設（神戸ポートアイランド
キャンパス新設）

01 理工学部の再編、新学部の開設

■理工学部の再編

理工学部は、知能情報学部（平成20年度）、フロンティアサイエンス学部（平成21年度）の理系2学部の新設に伴い、学生の入学定員の変更を図り、物理学科・生物学科・機能分子化学科、及び地学研究室の3学科1研究室体制で新しくスタートさせました。理工学部の源は本学開学時の文理学部にまでさかのぼり、これまで以上に「学生と教員の距離が近い」教育の実践に向け、低年次の基礎実験や高大連携の事業等に使われる「自然科学基礎実験施設」の設置、学習相談や学びの広場、研究の広場などのための「学修支援施設」の設置、大学院の充実を三本柱とする理工学部の中期計画を策定し、平成21年度から数年かけて整備を進めていきます。

新しい理工学部の開設を記念して、12月5日には「理工系教育の

歴史と将来の展望」と題し、現在社会で広く活躍される甲南学園ゆかりの方々による講演会を開催しました。



■マネジメント創造学部の開設

平成21年4月、マネジメント創造学部（愛称：CUBE）を開設し、西宮キャンパスに207名の1期生を迎えました。1年次の導入基礎科目では、小規模クラスできめ細やかな授業を実施し、基礎リテラシー科目では、4つのクラスに分け、複数の教員で学生の指導にあ



たるチームティーチングを実践しました。多くの学生は夜遅くまで学習し、学生同士で教え合う等、CUBEの教育スタイルが着実に根付きつつあります。

定員35名の特別留学コースの学生（平成21年度入学生は29名）は、2年次後期からの留学が原則必須となっており、1年次よりインテンシブな英語カリキュラムのもと、留学に向けた準備を進めています。また、CUBE独自の留学先として、カナダのビクトリア大学の経営学部と協定を締結し、新たな留学先を開拓しました。

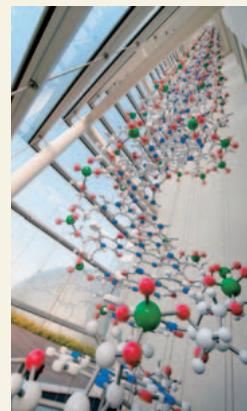
CUBEでは、経済と経営を中心に、英語を重視した学びで、「自ら学び、共に学ぶ力」、「自ら考え行動する力」を養い、「教養と品格を備えた国際人」、「総合的マネジメント能力を備えた人材」、「社会に貢献できる人材」を育てるべく、より一層教育活動に力を入れていきます。

■フロンティアサイエンス学部・同研究科の開設

平成21年4月、フロンティアサイエンス学部生命化学科、及びフロンティアサイエンス研究科生命化学専攻（修士課程・博士後期課程）【愛称FIRST】を開設し、ポートアイランドキャンパスに55名（学部生41名、大学院生14名）の1期生を迎えました。学部では学生一人ひとりに専用の研究スペースがある「マイラボ」、社会の第一線で活躍される方々を招へいする「フロントランナー講座」、研究の最前線の内容に触れる機会を与える「サイエンスライブチケット」等、新しい教育の試みがなされています。また、神戸医療産業都市構想の中心地である立地を活かした「アイランドシップ教育連携」により、外部機関との教育連携を進めています。さらに、研究活動にも、同キャンパスに移転した「先端生命工学研究所【愛

称FIBER】と密接に連携して、生命化学の研究拠点となるべく一層注力していきます。

このポートアイランドキャンパス開設を記念して5月9日にはシンポジウム『未来科学の夢を語ろう』を、11月2日には、核酸をはじめとする生命化学研究の第一人者である英国ケンブリッジ大学 Mike Gait教授を招待し、ご講演いただいた国際シンポジウムを開催しました。



キャンパス内に設置しているDNAモデルが、「世界で最も大きなDNAモデル」としてギネスブックの認定を受けました。

02 学園創立90周年記念事業募金

平成18年9月より開始いたしました学園創立90周年記念事業募金は、平成23年3月で終了となります。これまで、卒業生、保護者をはじめ、同窓会及び各地甲南会、法人・団体の皆様からのご援助により、平成21年度末で、募金目標額10億円に対し、約7億8千万円のご芳志を皆様から賜りました。

平成21年度は、募金事業の一つである「平生夙三郎記念教育振興事業」として、「人物教育率先平生拾芳奨学金制度」により大学の「甲南90周年栄誉スカラシップ」に20名、高等学校・中学校の「甲南90周年オナース

カラシップ」に顕著な成果を収めた団体・個人がそれぞれ選ばれました。

また、六甲アイランド総合体育施設整備事業は平成22年4月に完成し、ナイター設備を完備した全天候型総合体育施設に生まれ変わりました。

募金の申込状況は、経済状況の悪化により、法人・団体からの募金が伸び悩み、卒業生個人からの募金率も2%を越えたところです。記念募金活動の最終年度に向け、目標額を達成すべく継続的な働きかけを強化します。

■ 募金計画概要

● 募金事業

- ① 平生夙三郎記念教育振興事業
- ② 六甲アイランド総合体育施設整備事業
- ③ 高等学校・中学校新体育館整備事業

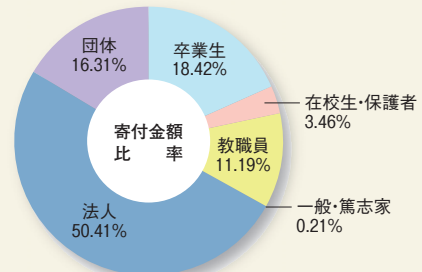
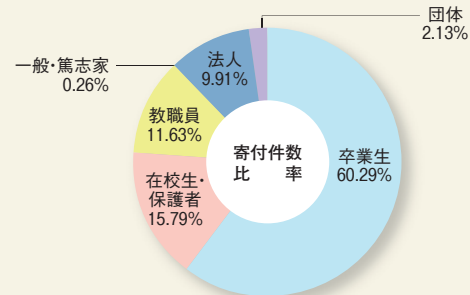
● 総事業費見込額／20億円

● 募金目標額／10億円

● 募金期間／平成18年9月1日～平成23年3月31日(4年7ヵ月)

■ 90周年記念事業募金申込状況 (平成22年3月31日現在)

	件数 (累計)	件数比率 (%)	金額 (累計:円)	金額比率 (%)
卒業生	2,069	60.29	143,315,146	18.42
在校生・保護者	542	15.79	26,903,555	3.46
教職員	399	11.63	87,101,500	11.19
一般・篤志家	9	0.26	1,625,000	0.21
法人	340	9.91	392,270,000	50.41
団体	73	2.13	126,936,453	16.31
合計	3,432	100.00	778,151,654	100.00



■ 人物教育率先平生拾芳奨学金制度

● 甲南90周年栄誉スカラシップ【甲南大学】

建学の精神に則った本学の学生を対象に、人物、学業、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な意欲、活動力を喚起涵養します。

● 甲南90周年オナースカラシップ【甲南高等学校・甲南中学校】

人物教育の率先を図ることを目的とし、甲南高等学校・中学校に在学する生徒及びクラブ活動団体を対象に、学修、スポーツ、文化・芸術、国際交流及び社会貢献の各分野において、旺盛な活動力を喚起涵養します。

平成21年度実績

種類	一人当たり 給付年額	給付人数	給付総額
平生記念甲南栄誉奨学生	120万円	5名	600万円
アスリート栄誉奨学生	100万円	3名	300万円
グローバル栄誉奨学生	150万円	1名	150万円
リジョナル栄誉奨学生	60万円	6名	360万円
甲南一貫教育栄誉奨学生	60万円	4名	240万円
トクレーヌ・コミュニカティブ教育栄誉奨学生	60万円	1名	60万円

平成21年度実績

種類	給付額 (一給付当たり)	給付数	給付総額
学修奨励奨学金	20万円	11	220万円
一貫教育優秀者表彰	1万円	4	4万円
優秀クラブ活動表彰	50万円	3	150万円
海外クラブ活動交流奨励金	50万円	1	50万円
交換留学奨励金	50万円	1	50万円
留学奨励金	20万円	—	—
社会貢献活動表彰	1生徒当たり1万円 または1団体等10万円 給付額35万円以内	—	—

ハイライト

03 六甲アイランド総合体育施設の整備

学園創立90周年記念事業の一つとして、「スポーツの持つ教育力を正課授業及び課外活動において引き出すユニバーシティスタンダードの体育施設」をコンセプトに整備を行った六甲アイランド総合体育施設が竣工しました。

事業の大きな柱であるグラウンドの人工芝化、陸上競技場の400m×6レーン化及び全天候化によって、総面積約80,000㎡の約60%が改修され、競技の快適性が大幅に向上したほか、降雨後の練習時間の確保に大きく寄与しています。

また、夜間照明設備の追加、更新によって、各施設ともにレクリエーションレベル以上の照度が確保され、安全かつ快適な夜間練習が可能となりました。

施設の再開発に伴い、南グラウンドの弓道場、部室



六甲アイランド総合体育施設

棟も新築されています。

部室棟は「お互いの活動が見える施設」をコンセプトにガラスを多用した開放的な空間になっており、共用のミーティングルームや無線LANによるネットワーク環境とともに、スポーツをする学生を支援する憩いの場となっています。

今後は、本学の学生のみならず、近隣の中学生、高校生や地域住民への開放を通じて、学生たちの人格修養の場となることを目指します。



アメリカンフットボール場兼ラクロス場

04 戦略プロジェクト「先端生命工学研究所」、 「法科大学院」の展開

平成15年4月、本学を代表する研究機構の整備を目的に10年を一区切りとする戦略プロジェクトとして設置された「先端生命工学研究所」は、私立大学学術研究高度化推進事業（文部科学省）としての5年間の研究が終了し、新たに「分子クラウド環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」をテーマに私立大学戦略的研究基盤形成支援事業に採択されました。この間、その研究成果は世界的な学会誌に掲載される等、高い評価を受けており、平成21年度においても、細胞内類似環境下での新しいDNA構造の発見や、企業との共同研究の成果が新聞に数多く取り上げられる等、顕著な研究成果が見られました。

また、平成21年4月には神戸医療産業都市構想の中心に立地するポートアイランドキャンパスへの移転を完了し、フロンティアサイエンス学部・同研究科をリードするとともに同学部・研究科と連携し、世界的な生命化学の研究拠点になることを目指しています。

平成16年4月に社会をリードする「ビジネス・ローヤー」、社会を守る「ソーシャル・ケア・ローヤー」という新しい形の法曹養成を目指し、5年間の中期経営計画戦略プロジェクトとして開設された法科大学院では、平成20年度に第Ⅰ期プロジェクトを終え、平成21年度より新たに5年間の第Ⅱ期プロジェクトを始動させました。

新司法試験制度をめぐる厳しい情勢変化の中、平成21年度は新司法試験に17名が合格し、平成18年度の新司法試験開始から45名の合格者を輩出しました。

今後も、法科大学院の「社会的責任」を果たすため「熟成教育」により「正義」を語りビジネスのパートナーとなる「甲南ローヤー」を育成します。



法廷教室

05 甲南平生国際フォーラムを開催

本フォーラムは、学園創立90周年を記念して、創立者平生鈞三郎が志した「東洋一の大学(人物教育ヲ率先)ノ創立」、「世界に通用する人材の輩出」といった建学の精神と理念を踏まえ、

21世紀の現在の視点で国際社会を見直す目的で平成20年度に設立し、平成21年度は、昨年度に引き続き、以下の2回のフォーラムを開催しました。

第3回シンポジウム

日時・場所	平成21年10月3日 甲友会館大ホール
テーマ	インドと日本の新たな関係
内容	経済成長の著しいインドを「外交」、「経済」、「科学技術・文化」の3つの視点から多角的に考えました。
基調講演	アフターブ・セット氏(慶應義塾大学グローバルセキュリティ研究所教授・元駐日本国インド全権大使)
パネルディスカッション	上記ゲスト及び、ウィリアム・ムケーシュ氏(慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス環境情報学部講師) モデレーター M.L.シュレスタ(経営学部教授・フロンティア研究推進機構長)
インド舞踊	ナリニトシュニワル氏(ルチカインディアダンスアカデミー・ディレクター&アーティスト)

第4回シンポジウム

日時・場所	平成21年11月7日 甲友会館大ホール
テーマ	北京五輪から1年——スポーツ文化に新しい日中関係を探る
内容	北京五輪の記憶を含み、スポーツ文化から日本と中国の関係について考えました。
基調講演	水野正人氏(ミズノ株式会社代表取締役会長・本学同窓会会長、IOCスポーツと環境委員会委員・JOC副会長)
特別講演	藤原庸介氏(財団法人日本オリンピック委員会理事)
パネルディスカッション	上記ゲスト及び、殷達寄氏(中華人民共和国駐大阪総領事館政治文化室室長・領事)、伊東浩司(スポーツ健康科学教育研究センター准教授) モデレーター 井野瀬久美恵(学長補佐・文学部教授) 総司会 鶴木千加子(スポーツ健康科学教育研究センター教授)

06 特徴ある広報活動

本学園が創立90周年、大学が約半世紀ぶりの新学部開設という大きな節目を迎えたことを受け、広報部では、平成19年度より甲南ブランドの再活性化を目指して、従来行ってきた紙媒体の広報誌発行という広報機能に加え、新たに①マーケティング、②ソーシャル・ネットワークキングという2つの機能を果たすべく、①次の世代のために、②身近な社会のために、③広報活動に触れる人々を“元気づける”という3つの視点を行動指針とし、各種プログラムを展開しました(主たるもののみ抜粋)。

■「日経新聞マルチプル広告」

学校法人としては西日本初の企画として、日本経済新聞夕刊大阪本社版10面のうち計6面に広告を集中掲載し、学園創立90周年にあたっての吉沢理事長のメッセージ、活躍する卒業生・在学生などを紹介しました。掲載紙は、学園創立90周年記念式典において、ご出席者全員にお配りしました。

■日本テレビ系

「24時間テレビ～愛は地球を救う～」の協賛

関西で初めて大学を拠点として協力し、多数の本学学生がボランティアとしてチャリティ募金活動を行いました。

■各種協賛

スポーツ・文化イベントへの協賛活動を通じて、学生たちをボランティアなどに参加させ、学生自身の人間的成長及び教育の場として位置づけるとともに、社会貢献活動を推進しました。

- 「ヴィッセル神戸」(Jリーグ)
- 「セレッソ大阪」(Jリーグ)
- 「堺ブレイザーズ」(Vリーグ)
- 「堺シティマラソン」
- 「SDD～STOP! DRUNK DRIVING PROJECT」(FM OSAKA主催)
- 「佐渡 裕とスーパーキッズ・オーケストラ」
- 「大阪ヨーロッパ映画祭」

I 事業の概要

大学・大学院

1 教育

(1) 学位記の授与

● 学士

各学部・学科の特色ある科目配置で編成されたカリキュラムの授業科目を履修し、厳格な成績評価を受けた上で、卒業要件単位を満たした1,936名の学生に、学士の学位が授与されました。

学部・コース	学士(分野)	学科内訳
文学部	文学 370名	■日本語日本文学科 76(2)名
	社会学 93名	■英語英米文学科 107(4)名 ■社会学科 93(3)名 ■人間科学科 106(2)名 ■歴史文化学科 81(2)名
理工学部	理工学 62名	■物理学科 84(8)名
	工学 85名 理学 128名	■生物学科 39(3)名 ■機能分子化学科 62(4)名 ■情報システム工学科 90(2)名
経済学部	経済学 402名	■経済学科 402(9)名
法学部	法学 436名	■法学科 432(13)名
		■経営法学科 4(1)名
経営学部	経営学 336名	■経営学科 336(9)名
EBA総合コース	経済学 14名	■経済学科 14名
	経営学 10名	■経営学科 10名

※()は前期卒業者で内数

● 修士・博士・会計修士・法務博士

大学院学則及び学位規程により、論文審査と最終試験に合格した66名に修士の学位が、4名に博士の学位が授与されました。また、会計大学院を修了した34名に会計修士の学位が、法科大学院を修了した64名に法務博士の学位が授与されました。

修士

研究科	修士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 16名	■日本語日本文学専攻 0名
	社会学 1名	■英語英米文学専攻 2名 ■応用社会学専攻 1名 ■人間科学専攻 14(4)名
自然科学研究科	理学 34名	■物理学専攻 13名
	工学 4名	■化学専攻 15名 ■生物学専攻 6名 ■情報システム工学専攻 4名
社会科学研究科	経済学 5名	■経済学専攻 5名
	経営学 6名	■経営学専攻 6名

※()は前期修了者で内数

博士(課程博士)

研究科	課程博士(分野)	専攻内訳
人文科学研究科	文学 0名	■日本語日本文学専攻 0名
	社会学 0名	■英語英米文学専攻 0名 ■応用社会学専攻 0名 ■人間科学専攻 0名
自然科学研究科	理学 2名	■物理学専攻 1(1)名
	工学 0名	■生命・機能科学専攻 1名 ■情報システム工学専攻 0名
社会科学研究科	経営学 0名	■経営学専攻 0名

※()は前期修了者で内数

博士(論文博士)

研究科	論文博士(分野)
人文科学研究科	文学 1名
自然科学研究科	理学 1名

専門職学位

研究科	学位(専門職)	専攻内訳
ビジネス研究科	会計修士 34名	会計専攻 34名
法学研究科	法務博士 64名	法務専攻 64名

(2) 法科大学院生が司法試験に合格

平成18年度からはじまった新司法試験に、平成21年度は、法学研究科(法科大学院)修了者93名が受験し、17名が合格しました。

(3) 会計大学院生が平成21年公認会計士試験に合格

平成21年公認会計士試験では、短答式試験に12名の会計大学院生(修了生も含む)が合格しました。さらに、前年度までの短答式試験合格者と合わせて22名が論文式試験に進み、修了生4名が合格しました。

(4) FD活動の推進

GPA制度を本格的に導入するとともに、シラバスの記載についてガイドラインを定めました。また、学生による授業評価アンケートについては集計結果の活用に意識して取り組みました。組織的な研修としては、名城大学副学長池田輝政氏による講演「授業外学習を促すコツ&成績評価」、本学マネジメント創造学部のジョーンズ・ブレント教授のコーディネーターによるワークショップ「What are some creative ways to make students review and prepare for classes?」、平成19年度に文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムに採択された「実践的経営シミュレーション演習プログラム」の最終報告会を兼ねたFD/ITフォーラム等を開催しました。また、FD委員会を中心に「新任教員研修・ガイダンス」を企画実施しました。

(5) 特色ある教育への取組

本学の強みを生かしたキャリア教育や入学前教育を継続して実施するとともに、文部科学省や内閣府の支援を得て特色ある教育を展開しました。「甲南平生GP」については、平成21年度は新規の採択を見送りましたが、平成20年度に採択した「学生の『個性化』を支える心と体の成長支援(学生部)」、「プロジェクト活動による地域連携教育の実践(文学部)」、「キャリア教育の発展型を通して培う学生力(キャリアセンター)の各プロジェクトを推進しました。

① キャリア教育の推進

平成18年度に「現代GP」に採択された『価値創造のできる21世紀型教養人の育成プログラム』に基づき、1年次から4年次の各年次に設けられるキャリアデザイン科目のうち、新たに3年次生対象の「プラクティカル・キャリアデザイン」科目を開講しました。

② 入学前教育の推進

早期に大学への入学が決定した推薦入学者等を対象に、入学時までの学力維持と入学後の大学教育へのスムーズな移行を目的として、e-learningによるメディアリテラシーを全学で、学部学科単位では、大学の授業に連動する基礎単元の通信講座、事前指導などを実施しました。

③ 経済学部「地域活性化システム論」を開講

経済学部では内閣府や神戸市等の協働と同窓会の支援を得て、「地域活性化システム論—六甲山の活性化に向けて」を開講し、六甲山の歴史・文化・自然を学ぶことを通じて、その環境・観光資源としての価値を再認識しました。また、学習の成果を神戸東灘マリオンライオンズクラブの「マナーの獅子 in 神戸」事業に応募して採択されました。

④ 経営学部「実践的経営シミュレーション演習プログラム」の展開

平成19年度に「現代GP」に採択された「実践的経営シミュレーション演習プログラム」は、経営学部教員の全員が開発に係った事前学習用コンテンツとコミュニティサイトの公開が進み、インターネット上で企業経営の模擬体験を行うe-learningとface to faceの指導を組み合わせた教育プログラムを確立し、平成22年度からの本格運用を目指しています。

※甲南平生GP…本学の特色が明確に打ち出せる教育改革の取組を教職員から募集し、全学的な支援体制を整えて実行するプログラム。

※現代GP…「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」の略。文部科学省が各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から各大学が工夫を凝らし、他の大学等でも参考となる「特に優れた教育プロジェクト(取組)」を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。

(6) 自己点検・評価の実施

平成21年度に実施した会計大学院の自己点検・評価について、財団法人大学基準協会による認証評価を受けた結果、適合していると認定されました。また、平成18年度に受けた機関別認証評価に対する評価後の改善報告をまとめる作業を進めると同時に、大学基準協会から提示された新たな評価システムによる「内部質保証システム」の構築に着手しました。

(7) 「相互評価に基づく学士課程教育質保証システムの創出—国公立4大学IRネットワーク」の展開

同志社大学、北海道大学、大阪府立大学と本学との国公立4大学での取組が、平成21年度文部科学省の「大学教育充実のための戦略的連携支援プログラム」に採択されました。このプログラムは「4大学IR学生調査ネットワークの構築と活用」「連携大学間におけるIRネットワークシステムの構築」「IRネットワークを活用した相互評価とベンチマーキング」「IR人材育成のためのワークショップ」を実現することで、教育の質保証を目指します。

※IR(Institutional Research 機関研究)…大学内の様々な情報を収集して、数値化・可視化し、評価指標として管理し、その分析結果を教育・研究、学生支援、経営等に活用すること。

(8) 国際交流・留学支援の推進

国際交流センターでは、「甲南プログレス・プロジェクト」を推進し、新たに台湾の東海大学、国立台北大学、中国の北京郵電大学と協定を締結し、アジア圏の協定校拡充を図りました。台湾との協定校とは、海外での学習を通し留学への興味を引き出すことを目的とした「エリアスタディーズ(短期留学体験型プログラム)」を実施し16名の学生が参加しました。学内では受入留学生と本学学生との交流、留学促進のための各種制度の充実、イベントを開催しました。

また、平成21年度は、経営学部とケルン・ビジネス・スクール間の学生交換協定により新たに受け入れた3名を含め49名の留学生を受け入れ、102名の学生を海外の協定校に送り出しました。

留学の種類		派遣人数	受入人数
外国留学	交換留学	7名	49名
	奨励留学	20名	—
エリアスタディーズ		16名	—
海外語学講座(夏・春の短期留学)		59名	—
合計		102名	49名

※平成21年度夏期日本語集中講座は、新型インフルエンザの影響により中止しました。

※協定校は、9カ国20校。

※甲南プログレス・プロジェクト…多様化する国際化社会において、国際人としての素養を身につけ、豊かな人格形成を実現するため、ユニークなプログラムを海外の大学と共同で開発し、年間100名の学生を海外の大学に送り出すプロジェクト。

(9) スポーツ強化支援

「スポーツ教育力の強化」を基本方針とし、強化指定団体制度及び指導者招へい支援金制度を継続して実施するとともに、指導者にはコンプライアンス講演、学生には学修・学生生活・就職活動に関する支援等、総合的な支援策を実施しました。

2 研究

(1) 平成21年度平生太郎基金科学研究奨励助成で3件、平生記念人文・社会科学研究奨励助成で3件を助成

本学が世界水準の研究拠点となる夢を実現しようとする気概のある研究を対象に募集し、平生太郎基金科学研究奨励助成(自然科学分野)3件、平生記念人文・社会科学研究奨励助成(人文・社会科学系分野)3件を採択し、助成しました。

※平生太郎基金科学研究奨励助成…学園創立者平生鈞三郎のご子息、太郎氏のご令室である故平生愛子様から遺贈を受けた財産で、科学研究(医学を含む。)を奨励することを目的とした基金。平成6年度より開始された学園の研究奨励助成制度。

※平生記念人文・社会科学研究奨励助成…平生太郎基金の遺贈者の精神に喚起された学園が学園の資金で人文・社会科学系分野の研究を奨励する助成制度。

【平生太郎基金科学研究奨励助成】

単位:千円

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
杉本直己 (フロンティアサイエンス学部教授)	甲南DNAサーベイヤーの構築と革新的核酸機能化技術の開発	平成20年4月1日～平成25年3月31日 5年間 ☆平成20年度からの継続	20,000 (平成20年度より5年で総額100,000)
本多大輔 (理工学部准教授) (生物学)	海洋の重要な分解者と目されるラビリンチュラ類の現存量と構成属の季節的変動の解明	※平成21年4月1日～平成23年3月31日	4,000
岳五一 (知能情報学部教授)	ユビキタスネットワークと知的共創システムに関する研究	※平成21年4月1日～平成24年3月31日	6,000
			平成21年度助成合計金額
			30,000

※但し、助成対象研究期間は平成21年度(平成21年4月1日～平成22年3月31日)とする。

【平生記念人文・社会科学研究奨励助成】

単位:千円

申請者	研究課題	研究期間	助成金額
森剛志 (経済学部准教授)	日本の経済格差拡大が若年世代の医療と社会設計へ及ぼす影響について	※平成21年4月1日～平成23年3月31日	750
中島清貴 (経済学部准教授)	信用リスクの計量的尺度の模索とその伝搬経路の解明	※平成21年4月1日～平成22年3月31日	750
渡辺顕修 (法科大学院教授)	裁判員裁判の課題と展望	※平成21年4月1日～平成24年3月31日	500
			平成21年度助成合計金額
			2,000

※但し、助成対象研究期間は平成21年度(平成21年4月1日～平成22年3月31日)とする。

(2) 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進展開

この事業は、大学の経営戦略や研究戦略に基づき、各大学が特色を活かした研究を実施するため、国が重点的かつ総合的な支援を行う事業でこれまでに採択された4件(内2件は私立大学学術研究高度化推進事業で採択)のプロジェクトを推進展開しています。

テーマ	期間
「分子クラウディング環境を活用した遺伝子発現系で活躍する機能性分子のデザイン・開発システムの構築」(先端生命工学研究所)	平成21年度から5年間
「心の危機の見極めと実践的ネットワークの創造」(人間科学研究所)	平成20年度から5年間
「ナノ構造システムにおける量子相関の研究」(量子ナノテクノロジー研究所)	平成17年度から5年間
「地域経済クラスター創造に向けての社会連携研究」(ビジネス・イノベーション研究所)	平成17年度から5年間

I 事業の概要

(3) 国立ハンバット大学(韓国) インキュベーションセンターと学術交流に関する協定書を締結

ビジネス・イノベーション研究所では、これまで行ってきた社会連携の成果を基盤に、研究会や国際的な産学連携成功事例の開発を行うことにより、学術及び教育上の活性化を促進するため、平成21年3月、韓国の国立ハンバット大学インキュベーションセンターと学術交流に関する協定書を締結しました。

(4) 研究支援体制の強化

文部科学省、日本学術振興会の科学研究費補助金、新エネルギー・産業技術総合研究開発機構の競争的資金等への理解を深めることを目的とした各種セミナーを開催しました。

平成21年度科学研究費補助金は、本学から26件が新規に採択されました。新規採択率43.3%は、新規応募件数50件以上の大学等研究機関の中で、全国第2位(私立大学では第1位)となりました。

(5) 知的財産管理体制の強化

「甲南大学発明規程」に基づき知的財産の管理・活用を行うとともに、知的財産への理解と関心を深めることを目的として、教職員、学生等向けに知的財産セミナーを開催しました。

3 学生支援活動

(1) 学生生活支援委員会の設置

学生の多様化という現状のもと、本学の基本理念である“Student First”(学生第一主義)をより具現化するために、全学的な視野で、学生支援の方針を議論し、その実施の企画・調整を行い、有効な連携支援と協働を可能とする学生生活支援委員会を設置し、その基本的な考え方を「“Student First”—甲南大学学生生活支援宣言」として明らかにしました。また、「Student First 教職員のための学生支援ガイドブック」を発行、配付しました。

(2) 深刻な経済不況と雇用情勢の悪化に伴う特別措置

深刻な経済不況と雇用情勢の悪化に伴い、就職内定先企業から内定取消しを受けた4年次生に対し、1年間に限り、引き続き在籍することを認める特別措置を行いました(平成21年度末に全員卒業)。また、家計が急変して修学が困難になった在学生及び新入生に対し、平成21年度授業料の半額相当額を減免する特別措置を実施しました。

(3) 奨学金・表彰制度の充実

学生のより高い学習意欲を引き出すために、目的別の各種奨学金の給付、表彰、授業料の免除等を実施しました。

(4) キャリア形成・進路支援体制の強化

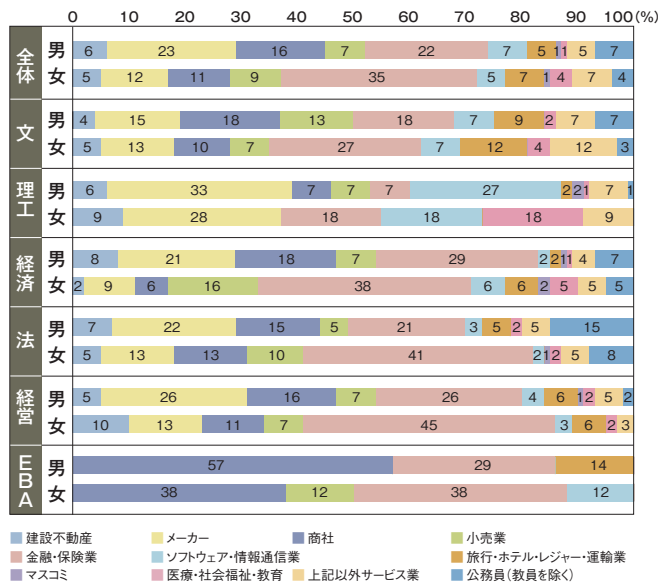
キャリア形成支援や首都圏での就職活動を支援する「企業研究講座 in TOKYO」、若手卒業生を招いての「OB・OG懇談会」、学部

の特性を考慮した「理工系学生のためのキャリア支援講座」、「文学部生向けキャリア支援講座」、「メディア人養成セミナー—甲南ロード2009・甲南ファーム2009」、父母対象の「父母就職説明会」等を開催しました。また、未内定者を対象に学内合同企業説明会の追加実施、個別相談窓口の充実、就職活動意欲維持に向けた「就職の寺子屋」を実施し、手厚いフォローアップを図りました。

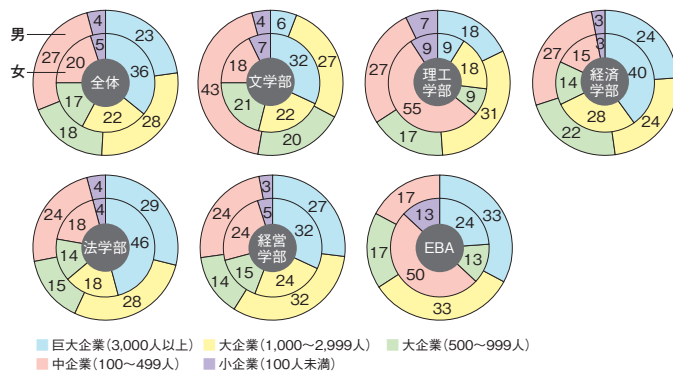
また、文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」学生支援推進プログラム(テーマB)に、キャリアセンターの取組名称「ニート回避と未内定者削減のための就職相談・情報提供体制の充実」が採択され、キャリアセンター開室時間の2時間延長、キャリアカウンセリングの専門家の配置、個別相談体制の強化等、満足度の高い就職先獲得を目指した取組を行いました。平成21年度の就職率は95.0%となりました。

■ 就職状況

業種別就職状況(%)



規模別就職状況(%)



(5) 学生生活の活性化

① 課外活動等の展開

学生が主体となる活動を促進させ、徳を備え活力に満ちた学生を育成・支援するため、学長表彰、学生部長特別表彰、父母の会課外

活動表彰(金甲賞)、同窓会課外活動表彰(会長賞・奨励賞)等の各種表彰を行いました。

②甲南21クリエイティブ・プラン

学生の社会参加、地域社会への貢献活動を促すことを目的に、「甲南21クリエイティブ・プラン」として引き続き学生からの企画を募集し、優秀なアイデア1件に資金的援助を行いました。

③市民救命士の育成

課外活動はもとより、学外においても緊急時に応急処置ができる学生を1人でも多く養成するため、市民救命士の講習会を2回開催しました。今後も市民救命士を養成していく計画を推進していきます。

④岡本一斉クリーン作戦

岡本地区の美化を促進するため、岡本商店街振興組合、東灘区まちづくり支援課、本山中央婦人会、美しい街岡本協議会、甲南女子大学、神戸市の関係部局が協力して、岡本一斉クリーン作戦が2回実施され、本学からは各回約160名が参加しました。また、「タバコのポイ捨て禁止」、「ゴミの分別」の啓発活動も同時に行いました。

⑤「父母の会・学生GP」の共催

甲南大学父母の会からの申し出により、「2009年度父母の会・学生GP」を共催し、学生と教職員の協力を前提に、広く学生の意欲を喚起する取組を募集し、厳正な審査の結果、6件の取組が採択されました。

(6) 父母対象の教育懇談会の実施

学生の父母に対し、本学の教育理念やキャンパスライフに関する生活情報を提供するため、本学で教育懇談会を5月16日に行いました。また、地方在住の父母を対象として、10月25日に名古屋市及び岡山市でも開催しました。

4 社会連携・貢献活動

(1) 甲南学園創立90周年記念懸賞論文

学園創立90周年を記念して、「いま、甲南大学を考える」をテーマに、中学生部門(甲南中学校に在学する生徒)、高校生部門1(甲南高校、フランス甲南学園トゥレーヌ高等部に在学する生徒)、高校生部門2(甲南大学を志望する生徒)、大学生・大学院生部門(甲南大学に在学する学生・大学院生)を対象に記念懸賞論文を募集し、受賞者6名を決定し、表彰式を行いました。受賞作品は論文集にし、本学ホームページにも掲載しました。

(2) 高大等連携の推進

「高大連携聴講生制度」に基づき、兵庫県、神戸市及び協定を締結した高校からの生徒を指定の授業に受け入れました。また、指定校推薦依頼校を対象とする教育交流会を開催し、高校の教員に入試制度、就職状況の説明や授業公開を行いました。各学部においては、出張講義、授業体験、遠隔授業等を実施しました。

フロンティアサイエンス学部では、科学技術振興機構の支援事業である「SPP事業」に、主催・連携を合わせ計4件、「理数系教員指導

力向上研修」に1件採択されました。また、先端生命工学研究所では、日本学術振興会の支援事業「ひらめき☆ときめきサイエンス」にも採択され、研究所での研究成果を中学校・高等学校の生徒へ広く還元を図りました。

※SPP事業…「サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト」の略。学校等と大学が連携し、研究者等を講師とする科学技術、理科に関する観察、実験、実習等の体験的・問題解決的な活動を中心とした学習活動を行うことによって、生徒の科学技術や理科に対する興味・関心と知的探究心を育成することを目的としている事業。

(3) 教員免許状更新講習の実施

理工学部と文学部では、卒業生教員や近隣の学校に勤務する教員のニーズに応えるために、教員免許状更新講習の実施体制を整備し、理工学部では文部科学省に採択され平成20年度実施した試行事業を進展させて地学・化学・生物の分野での更新講習を展開し、文学部では古地図を活用した更新講習を実施し、近隣の教育委員会等との連携を図りました。

(4) 産官学連携の推進

フロンティア研究推進機構において、産官学連携活動を積極的に推進するために、受託研究、共同研究や技術相談等の研究支援を行いました。また、本学の有する知的財産を広く社会に活用する事業を推進するために、本学の研究成果を京阪神地区及び東京地区の各種展示会等に出席するとともに、本学を含む関西の6私立大学と科学技術振興機構で新技術説明会を東京・JSTホールで主催しました。

(5) 大学間連携の推進

本学が加盟する兵庫県下の大学相互の連携を深め、教育・研究活動の向上と、地域社会の振興と発展に寄与する「大学コンソーシアムひょうご神戸」の学生交流事業を担当し、参加大学学生による「学生音楽祭」と、観光振興・物産宣伝・イベント企画・社会貢献活動の新提案等など兵庫をアピールするアイデア・企画を事業計画の形で募集し選定する「学生プロジェクトプラン・コンペ2009」を開催しました。また、1月23日に西宮キャンパスにおいて、文部科学省副大臣招へい講演・ミニシンポジウムも開催されました。

(6) 甲南女子大学と単位互換を開始

互いの大学にない科目を相互補完することで、特色ある教育を充実させることを目的として、平成20年度に締結された「甲南大学と甲南女子大学との単位互換の協定書」に基づき、平成21年度より甲南女子大学から46名が、本学から3名の学生が修得単位を互換しました。

(7) 西宮市大学交流協議会「共通単位講座」への参画

マネジメント創造学部を西宮市に設置し、西宮市大学交流協議会に加盟したことに伴い、平成21年度より学生の幅広い視野の育成と学習意欲の向上を目的とした「共通単位講座」に参画し、本学から10名の学生が受講しました。

※西宮市大学交流協議会…様々な交流事業、調査研究事業、情報発信事業等を行い、大学の教育研究のさらなる向上と、併せて、その成果を地域社会や産業界へ還元することを目的とし、西宮にある各大学・短期大学と西宮商工会議所、西宮市をもって構成されています。

I 事業の概要

(8) 生涯学習の支援

社会人講座、各種シンポジウム、公開講座等を通じて、生涯学習の機会を社会・地域に提供しました。

主な講演会・シンポジウム等

●公開講座

春期:「伝統的なものにふれる」

夏期:パソコン教室「ビデオ編集とインターネットでの共有～自分で撮影し編集した動画をみんなで鑑賞しよう!～」

秋期:「生物のふしぎを探る」

冬期:バドミントン教室「攻略!フォーメーション&ストローク」

●現代講座

「日々新たな出会い、発見」山本浩之氏(アナウンサー)

「ことばの力」重松清氏(作家)

「Talk Show」YOU氏(タレント)

●市民科学講演会(日本物理学会・甲南大学共催)

「21世紀の科学」佐藤文隆(甲南大学特別客員教授)

「現代社会の中の科学」益川敏英氏(京都産業大学教授)

●フロンティアサイエンス学部・先端生命工学研究所

講演会「FIBER Lectures in NANO BIO NOW Series」

「Defining the syntax for self-assembling RNA nano-architectures」

「がん細胞にだけ結合するペプチドを探る」

「遺伝暗号を拡張した人工タンパク質合成システムの開発と応用」

ポートアイランドキャンパス(FIRST・FIBER)開設記念国際シンポジウム 兼 FIBER Lectures in NANO BIO NOW Series

「Steric blocking oligonucleotides as drugs: the challenge of delivery」

●国際言語文化センター開設15周年記念フォーラム

講演会「日本文化を外国にどう伝えるかー映画・笑い・歌の場合ー」井上公造氏(評論家・芸能レポーター)

パネルディスカッション「大学における外国語教育の現在と未来」

●言語関連社会人講座

「言語講座」英語・独語・仏語・中国語・韓国語(レベル別)

夏期社会人講座「異文化の受容・異文化への適応」

●人間科学研究所

公開研究会

第46回「父親の子育て、父親にしかできない子育て」

第47回「障がい者の他者性と芸術表現～障がいの有無を超えた芸術表現とは何か～」

第49回「人間天皇の表象～天皇制の危機と揺らぐジェンダー～」

第50回「東京裁判研究と東京裁判論のあいだ～歴史社会学と歴史学の近さと遠さに苦慮しながら～」

第51回「先天性聴覚障害の子どもを持つ親の支援を考える」

第9回公開シンポジウム「戦争体験の記憶と語り」

第1回アートセラピーワークショップ「認知症ケアのためのアートーアートセラピーの視点と技法をとり入れてー」

●ビジネス・イノベーション研究所

研究会

第11回「ファミリー企業とリスク」

第12回「日本企業の中国・アジアビジネス戦略」

特別「日本と韓国の産学連携の現状と課題」

第13回「提携形成のゲーム理論的分析」

第14回「商店街は、地域再生の拠点となりえるのか」

●総合研究所

春期公開講演会「ウォーキングの文化史」

秋期公開講演会「暗黒が支配する宇宙」

●ネットワークキャンパス東京

連続講座「空間経済学と新世紀ーグローバル危機を乗り越えてー」公開講座

「裁判員制度ー「正義」を担う市民の時代 21世紀の刑事裁判の「かたち」

「都会の花と木を知ろう!秋を見せる身近な植物のはなし」

「平生講座IVー平生日記刊行を記念してー」

「フィールド写真ーカメラをもって街に出よう」

「花と緑の不思議ー春を魅せる植物たちー」

「激動する企業法務のダイナミクスと今後の課題ーグローバル時代における企業のあり方ー」

「酒と香とDNAのサイエンスー甲南大学ポートアイランドキャンパス開設記念ー」

5 環境整備

(1) 新キャンパスの施設管理体制の確立

西宮、ポートアイランド各キャンパス事務室と施設管理要員等との連携を図り、少人数による効率的な施設管理体制を構築しました。

(2) 快適・安全なキャンパス構築の推進

●グラウンドの人工芝化

憩いの場としての5号館北側グラウンドを人工芝化しました。

●石積擁壁崩落防止工事

岡本キャンパス正門にある石積の擁壁崩落防止工事を行いました。

●文化会館1階ロビーへのパネル収納倉庫設置工事

大学祭や学生団体主催の各種イベント等で使用するパネルを収納するための倉庫を文化会館1階ロビーに設置しました。

●担架の設置

怪我や急病人が出た際に、すぐに処置できる場所まで運ぶため、3号館1階ロビー、講堂兼体育館ロビーに担架及び収納ボックスを設置いたしました。

(3) 情報インフラ整備の推進

●パソコンOSのアップグレード

最新のIT環境による教育を実現するために、実習室パソコンのOSを平成21年度前期よりWindows Vistaにバージョンアップしました。

●ネットワークインフラの強化

6号館、13号館のネットワーク基幹スイッチをその他の号館と同様に二重化することにより、稼働中のスイッチに障害が発生した場合でも、より短時間で復旧が可能になりました。

6 学生募集・入学試験に係る各種活動

(1) 理工学部と神戸市立高等学校長会が推薦入学制度の協定を締結

平成21年10月、地域で共同して理工系の人材を育成することを

目的に、神戸市立高等学校長会から推薦された市立高等学校の生徒を、一定数、理工学部が受け入れることを内容とした「推薦入学制度に関する協定」を締結しました。

(2) 入学試験状況

平成22年2月から3月にかけて実施した入学試験の志願者総数は23,885名(前年比1,003名(4%)減)で、2年連続の減少となりました。内訳は、一般入試志願者数が1,328名減の14,084名(前年比

91.4%)、センター試験利用入学試験志願者数が325名増の9,801名(前年比103.4%)となっています。また、その他の入学試験では、AO入学試験に全体で160名が志願、51名が合格、49名が入学しました。

大学院においては、修士課程・博士後期課程で志願者数176名(前年比7名減)で108名が合格、法科大学院では志願者数203名(前年比159名減)で129名が合格、会計大学院では志願者数49名(前年比9名増)で41名が合格しました。

【入学試験状況】

学部・学科	一般入試				センター試験利用入試				その他の入試				
	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
文学部	日本語日本文学科	529	520	156	48	236	234	68	12	32	31	31	31
	英語英米文学科	641	634	206	67	444	439	145	19	24	24	22	21
	社会学科	815	800	176	66	434	427	62	11	41	41	36	35
	人間科学科	677	666	162	61	333	328	62	3	49	48	46	46
	歴史文化学科	530	521	122	36	409	407	79	8	33	33	31	31
	小計	3,192	3,141	822	278	1,856	1,835	416	53	179	177	166	164
理工学部	物理学科	454	439	142	35	236	230	77	5	29	27	25	22
	生物学科	380	375	100	30	333	329	60	10	16	16	16	16
	機能分子化学科	542	533	133	21	266	264	69	9	35	35	32	31
	小計	1,376	1,347	375	86	835	823	206	24	80	78	73	69
経済学部	2,822	2,763	565	190	2,342	2,322	531	54	179	177	152	149	
法学部	2,001	1,951	623	253	1,255	1,243	338	47	135	135	132	130	
経営学部	2,832	2,788	609	222	1,764	1,741	363	64	156	152	129	128	
知能情報学部	681	662	232	102	349	338	58	9	66	66	59	58	
マネジメント創造学部	932	911	189	68	1,024	1,018	150	20	272	268	117	101	
フロンティアサイエンス学部	248	242	70	19	376	370	84	8	17	17	12	12	
合計	14,084	13,805	3,485	1,218	9,801	9,690	2,146	279	1,084	1,070	840	811	

※その他の入試とは、マネジメント創造学部公募制推薦入学試験、AO入学試験、スポーツ能力に優れた者の推薦入学試験、経営学部高等学校商業学部推薦入学試験・理工学部高等学校工業科推薦入学試験、指定校推薦入学、系列校推薦入学、協定校推薦入学、帰国子女入学試験、社会人入学試験。

大学院[修士課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日本文学専攻	6	5	3	3
	英語英米文学専攻	2	2	1	1
	応用社会学専攻	4	4	2	1
	人間科学専攻	57	52	12	12
	小計	69	63	18	17
自然科学	物理学専攻	19	19	16	15
	化学専攻	17	16	15	15
	生物学専攻	7	7	7	6
	情報システム工学専攻	21	21	17	17
	小計	64	63	55	53
社会科学	経済学専攻	5	5	5	3
	経営学専攻	7	7	5	4
	小計	12	12	10	7
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	21	21	17	17
合計	166	159	100	94	

修士課程:一般入学試験、社会人入学試験、AO入学試験、外国人留学生入学試験、学内推薦入学試験、学内選考入学試験

大学院[博士後期課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	
人文科学	日本語日本文学専攻	0	0	0	0
	英語英米文学専攻	1	1	1	1
	応用社会学専攻	2	1	1	0
	人間科学専攻	4	4	3	3
	小計	7	6	5	4
自然科学	物理学専攻	0	0	0	0
	生命・機能科学専攻	1	1	1	1
	情報システム工学専攻	0	0	0	0
	小計	1	1	1	1
社会科学	経営学専攻	0	0	0	0
フロンティアサイエンス	生命化学専攻	2	2	2	2
合計	10	9	8	7	

博士後期課程:一般入学試験、社会人入学試験、外国人留学生入学試験

大学院[専門職課程]	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
法科大学院(法学研究科法務専攻)	203	182	129	36
会計大学院(ビジネス研究科会計専攻)	49	46	41	34
合計	252	228	170	70

会計大学院:一般入学試験、AO入学試験、指定校推薦入学試験、学内推薦入学試験

I 事業の概要

高等学校・中学校

1 教育

(1) 中高6年一貫教育システム (2-2-2、基礎・応用・発展)の展開

甲南大学、そして世界の大学を目指す中高6年一貫教育システムの進化・発展を図りました。

- ①基礎期間では、暗誦、テーマにそった作文ノートの作成、スピーチ等を積極的に展開し、日本語運用能力を高めるように努めました。加えて「言葉の力=日本語の運用能力」を伸ばすために語彙、言葉の意味、漢字、表記、文法そして敬語について包括的に指導し、基礎期間の2学年において「日本語検定」を団体受検し、特別賞を受賞しました。また、発展期間では「読んで書く」という姿勢を涵養するために感想文コンクールを実施しました。
- ②基礎期間で実施している計算力テストを応用期間、発展期間までつなげ、数学離れを防ぐとともに計算力の涵養に努めました。
- ③英語教育では、6年間系統だったクラス半数分割のオーラルコミュニケーションでShow & Tell, Interview Test, Prepared Speech, Debateなどを展開するとともに、グループによる英字新聞の作成、英語創作ノートの充実を図り、言語運用能力の向上に努めました。
- ④早い段階から進路目標を明確にするため、キャリア・ビジョンの養成の一環として、中学校3年においてキャリアリサーチと称する授業を設けるとともに、様々な職種で活躍される本校OBを招へいし、OBワークショップを実施しました。
- ⑤基礎・基本学力の向上のための学習・生活習慣を身につけることを目標に、ベーシック・コースにおいて、オリエンテーション合宿の実施やスタディー・ダイアリーを活用するとともに、学年ごとに配信可能なメールシステムを導入し、各家庭との連携を強化しました。
- ⑥全学あげて読書を奨励し、HRの時間を利用して一斉読書を行いました。この時、読んだ作品についてブックレポートを作成、教室に掲示し、互いの感想・考え方を理解し合うように工夫しました。
- ⑦発展期間では、文Ⅰ・文Ⅱ・理数の各コースに分かれ、将来の学びを見据えて、生徒のニーズに応じたカリキュラムのもとで、個性の伸張を図りました。次年度より、文Ⅰコースで国際理解教育に重点を置いたグローバルスタディー・プログラムを実施します。

(2) 甲南一貫教育の実現

平生精神をバックボーンとする甲南一貫教育を実現するために次の事業を実施しました。

- ①OBワークショップ、講演会や学習センターでのOBの指導、クラブ活動・ボランティア活動等により、世代や学年を超えた豊かな人脈を通じた人間形成に取り組めました。
- ②甲南大学法学部などの出張講義や知能情報学部・フロンティアサイエンス学部による特別実験、e-learningによる講座も実施し、高大連携教育を推進しました。
- ③主体的に学ぶ力を身につける中学校での「情報活用」「自学自修」を進展させ、高校で国際・環境・経営等についてテーマを決



中学テニス部4度目の全国大会団体優勝



高校バスアンサンブル部Japan Student Jazz Festival「神戸市長賞」(1位)3連覇(写真は2月「カウント・ベイシー・オーケストラ」との共演)



馬術部インターハイ3位入賞



「E-Study」フィールドワークで高阪学長に取材

めて研究に取り組む「E-Study」フィールドワークを、甲南大学の各学部、研究センターの協力を得て、聞き取り調査を行いました。

- ④甲南小学校との連携を強化、また甲南女子中学校・高等学校とも連携して、三学園学習成果発表会や、甲南大学の協力も得て、異年齢・異性との共生を考える農作業体験などによる三学園環境教育を実施しました。
- ⑤多様な能力を有する生徒を、高校入試制度の改革により受け入れました。
- ⑥入学前に平生三郎伝記の読書感想文作成を課題とし、また、授業では平生講座の実施や学校行事での平生精神の喚起を行うなど、学園創立者平生三郎の魅力や精神について認識を深めました。

(3) 伝統に根ざすイノベーションを実現する体制作り

教員組織活性化のために、各種研修の受講、授業公開、心理臨床や発達障がい等に関する校内研修会の開催などの研修制度を充実しました。

2 学習活動・学校生活支援活動

(1) 奨励金・奨学金の給付

各学年約10名の学力優秀者に対して奨励金を給付し、学習意欲の向上を図りました。また、甲南学園の教育・研究を推進充実するために、在学生父母・卒業生・企業等からの寄付金で設けられた甲南学園教育・研究基金からの助成を受け、「甲南奨学金」を給付しました。

(2) 学習センターの活用

学習習慣の確立と自主的学習の促進を図るため、専任教員と甲南大学生によるチューターの指導のもと、教科指導や学習方法の相談を放課後に行い、延べ800名を超える受講生がありました。基礎トレーニング(数学、英語)講座を設け個々の生徒のニーズに対応する学びを課外に設定しました。

また、学習支援を必要とする生徒個々を対象に、教頭・教育研究部長・学年主任・担任・養護教諭・カウンセラーで組織するサポートチームを新たに設け、さらに丁寧な指導を行いました。

法人

(3) 国際交流の推進

海外協定校(4ヵ国4校)と長期交換留学や短期語学研修を実施しました。

グレゴリー・テラス校への例年の短期研修はインフルエンザ流行のため中止となりましたが、秋にはグレゴリー・テラス校から生徒28名が約2週間の日程で短期研修に来日、本校生徒宅でホームステイして授業を受け、活発な交流が行われました。

3 環境整備

教室窓サッシ・壁、音楽教室壁改修、ロールカーテン取替、屋上防水、グラウンド観覧席、各種消防設備改修、大教室プロジェクター取替、無線LANサーバ更新、トイレ照明自動点滅装置設置等、快適・安全な環境整備と課外活動施設等の整備を行いました。

4 進路状況

一人ひとりの適性や個性に応じ、現在は普通コース文I・II、理数コースの3コース制により、将来に向けた自己の確立を目指しています。平成21年度卒業生の進路は、約2/3の生徒が推薦制度により甲南大学、約1/3が大阪大学をはじめとした国公立大学や関西・首都圏の医学部・歯学部等を含む私立大学に進学しました。

5 生徒募集・入学試験に係る活動

高等学校入学試験は、新教育システムの展開を踏まえ、生徒一人ひとりの学力、興味・意欲、学習態度の向上を図り、個性豊かで創造力のある人物の育成を目指し、募集人員を普通コースのみ約20名に縮減した推薦入試制度に改革しました。

中学校入学試験は、中高一貫教育での新たなカリキュラム展開や1クラス35名の少人数クラス編成などの学校改革と入試制度改革を行いました。少子化と厳しい経済社会情勢の影響で、志願者は前年度より大きく減少しました。競争率はI期入試a方式2.0倍、II期入試2.2倍、III期入試では3.6倍となりました。

また、昨年度よりI・II期入試の合格発表時に得点開示を行っています。

高等学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
普通コース	推薦入試	11	11	10	10	1.1
	帰国(上記に含む)	1	1	1	1	

中学校

募集形態		志願者数	受験者数	合格者数	入学者数	競争率
I期入試	a方式	185	181	92	87	2.0
	b方式	9	9	9	9	1.0
小計		194	190	101	96	-
II期入試		326	200	92	37	2.2
帰国(上記に含む)		1	1	1	1	
III期入試		84	76	21	20	3.6
甲南小学校		28	28	28	28	-
合計		632	494	242	181	-

備考:II期入試欠席者126名のうち、I期入試合格者94名

1 管理運営・財政

(1) 新型インフルエンザへの対応

新型インフルエンザの流行に伴い、感染拡大の防止策を講じるとともに、緊急連絡体制の確認、蔓延時の事務縮小体制の検討を実施しました。また、大学、高等学校・中学校の休校、学年・学級閉鎖等に対応するとともに、各施設の消毒、消毒液の設置、健康相談者へのマスク配付等を行いました。

(2) 避難訓練の実施

「緊急地震速報システム」を配備した岡本・西宮・ポートアイランドの各大学キャンパス、高等学校・中学校において、講義時間中に地震による火災が発生したとの想定に基づき、避難訓練を実施し、学生・生徒、教職員約2,110名が参加しました。

(3) 施設設備の適正管理及びコスト削減の実施

ウェブ上で調達価格の競争を促す購買システムの導入、相見積取得の徹底、経済情勢を踏まえた取引先との価格折衝等を通じ、調達コストの削減を図りました。

また、「甲南学園省エネルギー推進に関する規程」を制定し、温室効果ガス排出量の削減への取組を開始しました。

2 広報活動・卒業生との連携事業等

●特別講演会「堂島ロールのヒミツ」の開催

平成21年度は、新型インフルエンザの影響により、甲南ファミリーが交流を深める「オール甲南の集い」が実施できなかったため、日本で一番売れている“堂島ロール”を製造・販売する株式会社モンシユシュの金美花社長を招へいし、特別講演会を開催しました。第2部では、本学の高龍秀経済学部教授、西村順二経営学部教授が金社長と対談しながら同社のマーケティングについて分析、観客のみなさんに楽しく学んでいただく形のフォーラムを開催し、600名を超える参加がありました。

●「ふれあい“甲南”お山歩(さんぽ)eco~六甲山環境対話プログラム~」の実施

小学生とその両親を対象に、本学岡本キャンパス及び六甲山の南麓“甲南エリア”で自然と触れ合いながら、未来へつながる自然環境の大切さやその豊かさを親子で再発見し、本学教員のミニ授業や児童福祉研究会のサポートにより、参加した子どもたちの原風景に“甲南大学”が残る企画として、プログラムを実施しました。

3 フランス甲南学園トゥレーヌ 平成25年3月閉校へ

平成3年に開設されたフランス甲南学園トゥレーヌ(設立時は「トゥレーヌ甲南学園」)は、平成22年3月までに576名の卒業生を出しました。しかし、今後継続するのに適切な生徒数確保に見通しを立てることができず、平成22年度の新入生を最終学年とし、これまで以上の教育を最後まで果たすことにより、甲南学園として名誉ある撤退に向け、可能な限りの支援をいたします。

II 財務の概要

■平成21年度決算の概要

平成17年度に策定した中期経営計画の予定どおり、平成21年度は西宮キャンパス(CUBE)とポートアイランドキャンパス(FAME)を建設し、マネジメント創造学部とフロンティアサイエンス学部及び同研究科を開設しました。さらに、先端生命工学研究所(FIBER)をポートアイランドキャンパスへ移転しました。

また、学園創立90周年にあたり、昨年4月21日に記念式典を開催しました。さらに、記念事業として①甲南90周年栄誉スカラシップ(大学)、甲南90周年オナースカラシップ(高校・中学)の給付、②六甲アイランド体育施設整備事業を平成22年度竣工に向けて着工しました。

以下に、資金収支決算及び消費収支決算の内容についてご報告いたします。

■資金収支決算の概要

資金収入は、学生生徒等納付金収入、手数料収入、寄付金収入、事業収入が予算を下回ったものの、雑収入、補助金収入、資産運用収入が増加したため、予算を1億95百万円上回る191億27百万円となりました。一方、資金支出は人件費支出、資産運用支出が予算を上回ったものの、教育研究経費支出、管理経費支出が調達方法の見直し等様々な工夫を実行したことにより予算を下回りました。最終的に、大学将来計画準備引当特定資産に6億円、大学教育・研究環境整備充実引当特定資産に3億円を積み立てた結果、予算を8億34百万円上回る188億77百万円となりました。その結果、資金収入超過額は2億50百万円となりました。

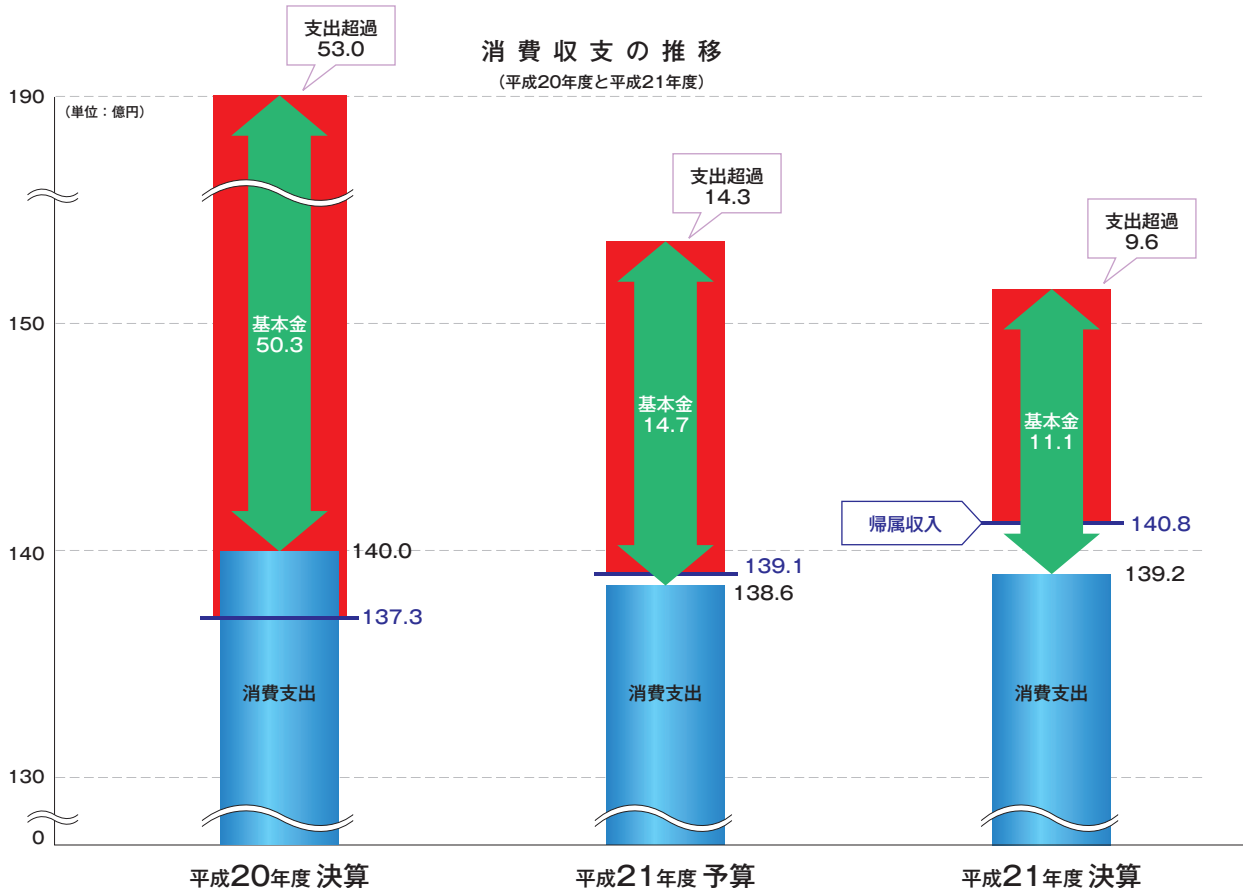
■消費収支決算の概要

学園全体の帰属収入は140億76百万円、基本金組入額は11億12百万円。帰属収入から基本金組入額を除いた消費収入は129億64百万円。一方、消費支出は139億23百万円となり、帰属収支差額は1億53百万円の収入超過となりました。

予算対比で見ますと、帰属収入は学生生徒等納付金、手数料、事業収入が減少しましたが、雑収入、寄付金、資産運用収入、補助金が増加したことに伴い、1億70百万円の増収(予算139億6百万円に対して決算は140億76百万円)となり、基本金組入額は教育研究用機器備品等の除却が発生したため、3億62百万円の減少(予算14億74百万円に対して決算は11億12百万円)となりました。一方、消費支出は依願退職者が発生したことによる人件費の増加と図書を除籍等による資産処分差額等を計上したことにより、62百万円増加(予算138億61百万円に対して139億23百万円)となり、その結果、消費支出超過額は予算より4億69百万円減少し、9億59百万円となりました。

他方、前年度決算と比較しますと、帰属収入は寄付金、雑収入、学生生徒等納付金等が増加したことに伴い、3億42百万円の増収(前年度の帰属収入は137億34百万円)。基本金組入額は前年度より39億17百万円減少し、11億12百万円(前年度は50億29百万円)となりました。一方、消費支出は人件費、教育研究経費が増加したものの、管理経費、資産処分差額は減少したため、79百万円の支出減(前年度の消費支出は140億2百万円)となりました。

■平成20年度決算・平成21年度予算及び決算の比較



■資金収支計算書(学園総括) 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	10,717,405	10,710,233	7,172	人件費支出	8,009,465	8,119,010	△109,545
手数料収入	671,570	670,558	1,012	教育研究経費支出	3,379,498	3,173,911	205,587
寄付金収入	361,698	359,799	1,899	管理経費支出	683,422	676,189	7,233
補助金収入	1,465,887	1,471,999	△6,112	借入金等利息支出	22,781	22,781	0
資産運用収入	280,984	287,304	△6,320	借入金等返済支出	125,000	125,000	0
事業収入	96,825	81,924	14,901	施設関係支出	1,198,474	1,089,469	109,005
雑収入	311,626	433,808	△122,182	設備関係支出	523,309	498,398	24,911
その他の収入	4,909,552	5,005,779	△96,227	資産運用支出	3,756,619	4,918,161	△1,161,542
				その他の支出	254,562	253,603	959
					(260,787)		
				予備費	89,213		89,213
計	18,815,547	19,021,404	△205,857	計	18,042,343	18,876,522	△834,179
資金調整	116,649	105,355	11,294	資金調整	-	-	-
収入の部合計	18,932,196	19,126,759	△194,563	支出の部合計	18,042,343	18,876,522	△834,179
収入超過額	889,853	250,237					

(注) 1.資金調整勘定、仮払金、立替金、預り金、前受金等は含んでいない。
2.「資金調整」は貸付金の収支差額を表す。

注記 予備費からの振替	人件費支出	6,777
	教育研究経費支出	206,054
	管理経費支出	15,420
	設備関係支出	32,536
	計	260,787

■消費収支計算書(学園総括) 平成21年4月1日から平成22年3月31日まで

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算	決算	差異	科目	予算	決算	差異
学生生徒等納付金	10,717,405	10,710,233	7,172	人件費	7,931,179	8,018,645	△87,466
手数料	671,570	670,558	1,012	教育研究経費	5,075,389	4,909,132	166,257
寄付金	361,698	417,470	△55,772	管理経費	709,435	705,287	4,148
補助金	1,465,887	1,471,999	△6,112	借入金等利息	22,781	22,781	0
資産運用収入	280,984	289,785	△8,801	資産処分差額	0	71,731	△71,731
事業収入	96,825	81,924	14,901	徴収不能引当金繰入額	0	195,410	△195,410
雑収入	311,626	433,808	△122,182				
帰属収入合計	13,905,995	14,075,777	△169,782		(228,251)		
基本金組入額	△1,473,930	△1,111,938	△361,992	予備費	121,749		121,749
収入の部合計	12,432,065	12,963,839	△531,774	支出の部合計	13,860,533	13,922,986	△62,453
				消費収支超過額	△1,428,468	△959,147	
				前年度繰越消費収入超過額	△4,506,059	△4,506,059	
				翌年度繰越消費収入超過額	△5,934,527	△5,465,206	

注記 予備費からの振替	人件費	6,777
	教育研究経費	206,054
	管理経費	15,420
	計	228,251

II 財務の概要

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

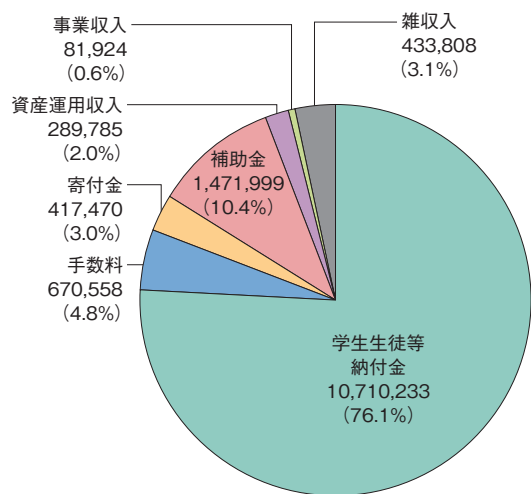
(単位:千円)

■法人・大学・高校・中学(学園全体)

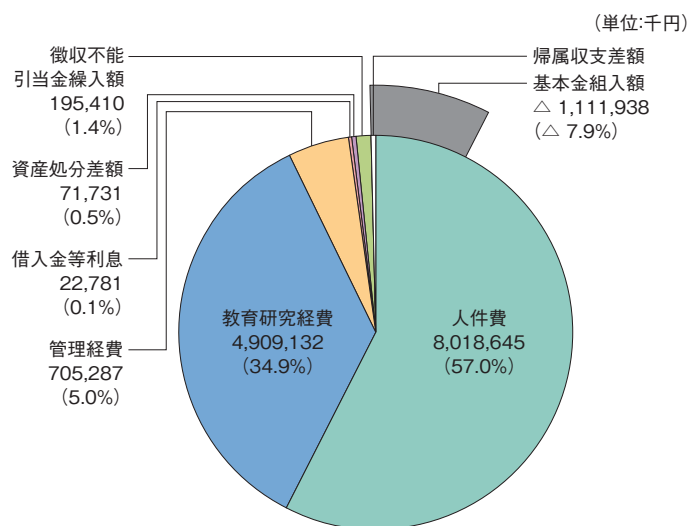
(単位:千円)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消 費 収 入	学生生徒等納付金	10,710,233	76.1%
	手 数 料	670,558	4.8%
	寄 付 金	417,470	3.0%
	補 助 金	1,471,999	10.4%
	資 産 運 用 収 入	289,785	2.0%
	事 業 収 入	81,924	0.6%
	雑 収 入	433,808	3.1%
	帰 属 収 入 合 計	14,075,777	100.0%
	基 本 金 組 入 額	△ 1,111,938	△ 7.9%
消費収入の部合計		12,963,839	92.1%
消 費 支 出	人 件 費	8,018,645	57.0%
	教 育 研 究 経 費	4,909,132	34.9%
	管 理 経 費	705,287	5.0%
	借 入 金 等 利 息	22,781	0.1%
	資 産 処 分 差 額	71,731	0.5%
	徴収不能引当金繰入額	195,410	1.4%
	消費支出の部合計	13,922,986	98.9%
消費収支差額		△ 959,147	

※構成比率は、帰属収入を100とした場合の当該科目の比率となっております。



収入科目構成比率(学園)



支出科目構成比率(学園)

《用語の説明》

資金収支

1年間の教育研究活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表すものです。

消費収支

企業会計の損益計算の仕組みを引用し、消費収入(収益)と消費支出(費用)の内容と均衡の状態を明らかにしようとするものです。

帰属収入

学生生徒等納付金などの学校法人の負債とならない収入。

基本金組入額

基本金は学校法人が教育・研究を継続的に維持向上させていくために必要な校地・校舎、機械器具、図書等を取得した金額(第1号基本金)、校地、校舎等を取得するために年次的、段階的に積み立てる資金(第2号基本金)、さらには教育・研究を維持充実するための積立(第3号基本金)および恒常的に保持すべき資金として文部科学大臣の定める額の確保のために帰属収入からあてられる金額(第4号基本金)をいいます。これらの金額は支出にあてることなく、帰属収入のうちから組み入れる(控除すること)となっており、その金額を基本金組入額といいます。

消費収入

帰属収入から基本金組入額を差し引いた残りの収入で、消費支出にあてられるものです。

消費支出

資金収支計算書の支出の部の「人件費支出(退職金支出を除き、退職給与引当金繰入額を加える)」、「教育研究経費支出・管理経費支出(減価償却額を加える)」、「借入金等利息支出」に消費支出のみの項目である「資産処分差額」、「徴収不能引当金繰入額」を加えたものです。

帰属収支差額

帰属収入と消費支出の差です。

消費収支差額

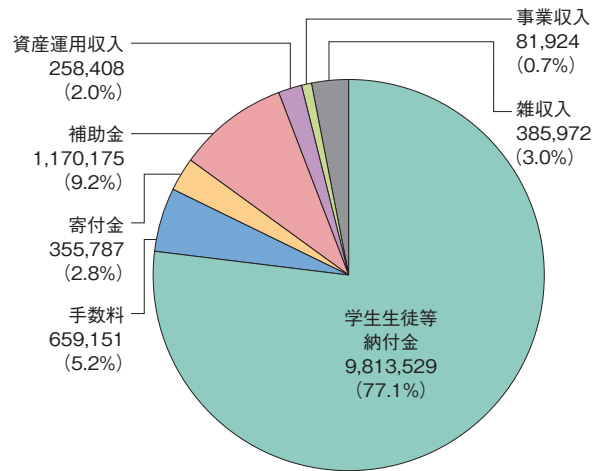
消費収入と消費支出との差です。

消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

(単位:千円)

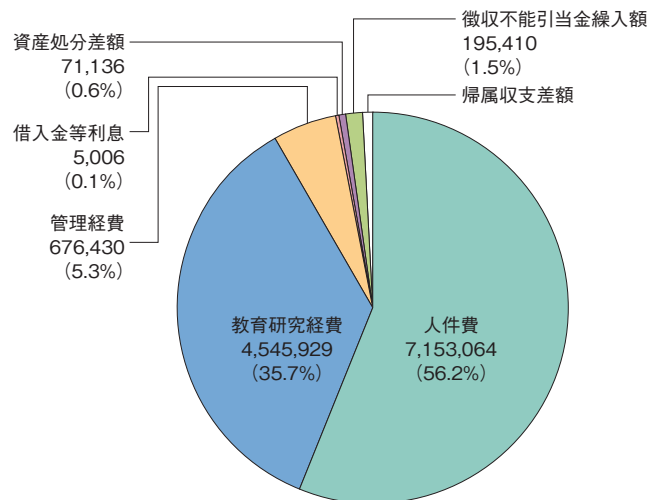
■法人・大学

(単位:千円)			
	科目	金額	構成比率
消費収入	学生生徒等納付金	9,813,529	77.1%
	手数料	659,151	5.2%
	寄付金	355,787	2.8%
	補助金	1,170,175	9.2%
	資産運用収入	258,408	2.0%
	事業収入	81,924	0.7%
	雑収入	385,972	3.0%
	帰属収入合計	12,724,946	100.0%
	基本金組入額	△ 998,819	△ 7.8%
	消費収入の部合計	11,726,127	92.2%
消費支出	人件費	7,153,064	56.2%
	教育研究経費	4,545,929	35.7%
	管理経費	676,430	5.3%
	借入金等利息	5,006	0.1%
	資産処分差額	71,136	0.6%
	徴収不能引当金繰入額	195,410	1.5%
	消費支出の部合計	12,646,975	99.4%
消費収支差額		△ 920,848	



収入科目構成比率(法人・大学)

(単位:千円)



支出科目構成比率(法人・大学)

《用語(科目)の説明》

- ①学生生徒等納付金…………… 授業料、入学金、施設設備資金、施設維持費、教育充実費、実験・実習費等
- ②手数料…………… 入学検定料、証明手数料等
- ③寄付金…………… 学園創立90周年記念事業募金、教育振興募金、企業からの研究助成等
- ④補助金…………… 経常費補助金(現代GP、私立大学戦略的研究基盤形成支援事業を含む)、研究装置・設備・施設整備費等補助金等
- ⑤資産運用収入…………… 受取利息配当金、施設設備利用料収入等
- ⑥事業収入…………… 受託事業、収益事業にかかる収入等
- ⑦雑収入…………… 私学退職金財団交付金収入、科学研究費補助金の間接経費、その他
①から⑥の各収入に含まれない収入で、かつ帰属収入となる収入
- ⑧人件費…………… 教員・職員に支給する本俸、期末手当、その他の手当及び所定福利費、役員報酬、退職給与引当金繰入額、退職金
- ⑨教育研究経費…………… 教育研究のために要する経費及び教育研究用減価償却資産の減価償却額
- ⑩管理経費…………… 教育研究経費以外の経費及び教育研究用以外の減価償却資産の減価償却額
- ⑪借入金等利息…………… 借入金にかかる利息
- ⑫資産処分差額…………… 固定資産や有価証券を売却し、その代価が簿価残高を下回った場合の、その差額・除却差額等
- ⑬徴収不能引当金繰入額…………… 金銭債権のうち、その回収不能額を見積る引当金計上額

II 財務の概要

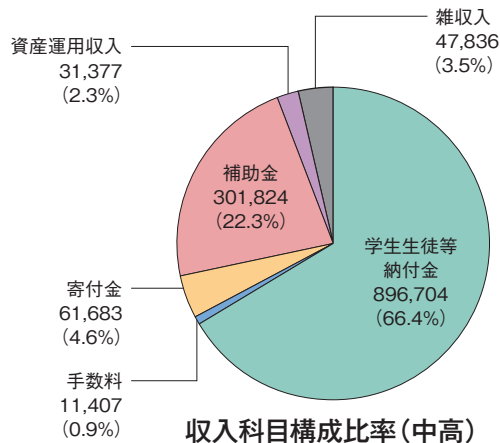
消費収支決算(部門別内訳)・構成比率

■高校・中学

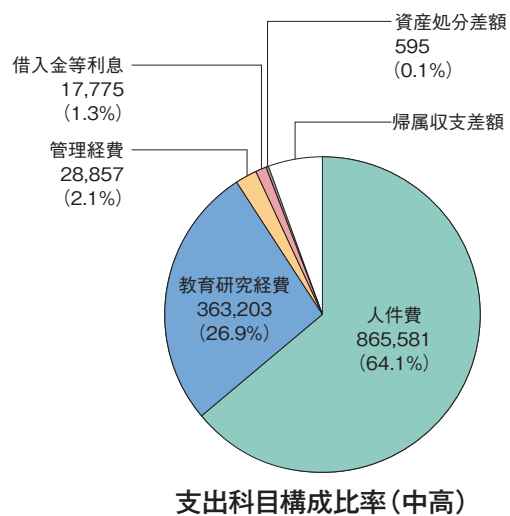
(単位:千円)

(単位:千円)

	科 目	金 額	構 成 比 率
消費 収入	学生生徒等納付金	896,704	66.4%
	手 数 料	11,407	0.9%
	寄 付 金	61,683	4.6%
	補 助 金	301,824	22.3%
	資 産 運 用 収 入	31,377	2.3%
	雑 収 入	47,836	3.5%
	帰 属 収 入 合 計	1,350,831	100.0%
	基 本 金 組 入 額	△ 113,119	△ 8.4%
	消費収入の部合計	1,237,712	91.6%
消費 支出	人 件 費	865,581	64.1%
	教 育 研 究 経 費	363,203	26.9%
	管 理 経 費	28,857	2.1%
	借 入 金 等 利 息	17,775	1.3%
	資 産 処 分 差 額	595	0.1%
	消費支出の部合計	1,276,011	94.5%
消費収支差額		△ 38,299	



(単位:千円)



■貸借対照表(平成22年3月31日)

(単位:千円)

資産の部				負債の部			
科目	平成21年度末	平成20年度末	増減	科目	平成21年度末	平成20年度末	増減
固定資産	79,645,176	79,862,634	△ 217,458	固定負債	5,946,682	6,172,048	△ 225,366
有形固定資産	60,279,619	60,499,195	△ 219,576	長期借入金	650,000	775,000	△ 125,000
土地	22,358,937	22,358,937	0	退職給与引当金	5,296,682	5,397,048	△ 100,366
建物	29,152,582	30,291,805	△ 1,139,223	流動負債	3,083,059	2,943,074	139,985
構築物	1,123,726	1,080,388	43,338	短期借入金	125,000	125,000	0
教育研究用機器備品	1,968,482	1,896,319	72,163	未払金	645,831	513,064	132,767
その他の機器備品	9,087	8,172	915	前受金	2,159,440	2,169,067	△ 9,627
図書	4,862,038	4,801,281	60,757	預り金	152,788	135,943	16,845
建設仮勘定	804,767	62,293	742,474	負債の部合計	9,029,741	9,115,122	△ 85,381
その他の固定資産	19,365,557	19,363,439	2,118	基本金の部			
ソフトウェア	34,789	0	34,789	科目	平成21年度末	平成20年度末	増減
電話加入権	4,615	4,615	0	第1号基本金	80,438,127	79,003,000	1,435,127
施設利用権	16,349	17,404	△ 1,055	第2号基本金	657,294	1,042,639	△ 385,345
長期貸付金	768,017	858,082	△ 90,065	第3号基本金	3,749,001	3,686,845	62,156
退職給与引当特定資産	2,648,341	2,698,524	△ 50,183	第4号基本金	824,000	824,000	0
償却引当特定資産	4,970,068	4,348,877	621,191	基本金の部合計	85,668,422	84,556,484	1,111,938
理系学部設備充実引当特定資産	87,063	74,812	12,251	消費収支差額の部			
大学教育・研究環境整備充実引当特定資産	2,769,536	2,799,506	△ 29,970	科目	平成21年度末	平成20年度末	増減
大学将来計画準備引当特定資産	861,101	1,099,986	△ 238,885	翌年度繰越消費収入超過額	△ 5,465,206	△ 4,506,059	△ 959,147
平生太郎基金引当特定資産	1,846,879	1,834,600	12,279	消費収支差額の部合計	△ 5,465,206	△ 4,506,059	△ 959,147
文学部研究助成引当特定資産	342	342	0	負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計			
中高教育充実引当特定資産	803,244	748,534	54,710	89,232,957	89,165,547	67,410	
大学施設・設備充実引当特定資産	115,457	550,803	△ 435,346				
中高施設・設備充実引当特定資産	11,837	11,837	0				
中高体育館建設引当特定資産	530,000	480,000	50,000				
第3号基本金引当特定資産	3,749,001	3,686,845	62,156				
出資金	22,141	21,905	236				
敷金・保証金	126,777	126,767	10				
流動資産	9,587,781	9,302,913	284,868				
現金預金	9,052,893	8,927,890	125,003				
未収入金	445,709	307,019	138,690				
前払金	83,800	66,017	17,783				
仮払金	1,589	1,465	124				
立替金	3,790	522	3,268				
資産の部合計	89,232,957	89,165,547	67,410				

(注記) 貸借対照表の補足説明

その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

○有価証券の時価情報

(単位:千円)

種類	平成21年度(平成22年3月31日)		
	貸借対照表計上額	時価	差額
時価が貸借対照表計上額を超えるもの(うち満期保有目的の債券)	6,208,192(300,640)	6,864,707(309,860)	656,515 (9,220)
時価が貸借対照表計上額を超えないもの(うち満期保有目的の債券)	4,084,922(600,000)	3,604,048(497,830)	△ 480,874(△102,170)
合計(うち満期保有目的の債券)	10,293,114(900,640)	10,468,755(807,690)	175,641 (△92,950)

上記の貸借対照表計上額には、仕組債 995,590千円を含んでおり、うち900,640千円は元本毀損リスクのない債券である。

II 財務の概要

■消費収支決算の推移(学園総括) 平成16年度から平成21年度まで

(単位:千円)

項目 \ 年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
帰属収入	14,140,896	14,237,329	13,827,842	14,085,651	13,734,456	14,075,777
基本金組入額	△ 1,864,222	△ 1,933,977	△ 1,320,593	△ 5,067,350	△ 5,029,092	△ 1,111,938
消費収入	12,276,674	12,303,352	12,507,249	9,018,301	8,705,364	12,963,839
消費支出	12,618,774	13,238,071	12,914,940	13,226,560	14,001,820	13,922,986
消費収支超過額	△ 342,100	△ 934,719	△ 407,691	△ 4,208,259	△ 5,296,456	△ 959,147
基本金取崩額	—	—	33,767	—	—	—
消費収支超過額計	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397	△ 4,506,059	△ 5,465,206
帰属収支差額	1,522,122	999,258	912,902	859,091	△ 267,364	152,791
消費収支超過額計 帰属収入	44.6%	37.7%	36.1%	5.6%	△32.8%	△38.8%

■財務状況の推移(学園総括) 平成16年度から平成21年度まで

(単位:千円)

項目 \ 年度	平成16年度末	平成17年度末	平成18年度末	平成19年度末	平成20年度末	平成21年度末
総資産	87,817,488	88,484,703	89,275,896	89,275,723	89,165,547	89,232,957
固定資産	79,192,230	79,878,718	80,178,364	80,438,157	79,862,634	79,645,176
有形固定資産	54,218,178	53,870,115	53,494,751	57,150,999	60,499,195	60,279,619
その他の固定資産	24,974,052	26,008,603	26,683,613	23,287,158	19,363,439	19,365,557
流動資産	8,625,258	8,605,985	9,097,532	8,837,566	9,302,913	9,587,781
総負債	10,270,950	9,938,907	9,817,198	8,957,934	9,115,122	9,029,741
固定負債	7,192,913	6,883,481	6,759,481	6,340,766	6,172,048	5,946,682
流動負債	3,078,037	3,055,426	3,057,717	2,617,168	2,943,074	3,083,059
基本金	71,239,239	73,173,216	74,460,042	79,527,392	84,556,484	85,668,422
消費収支差額	6,307,299	5,372,580	4,998,656	790,397	△ 4,506,059	△ 5,465,206
正味財産	77,546,538	78,545,796	79,458,698	80,317,789	80,050,425	80,203,216

■財務比率の推移(学園総括) 平成16年度から平成21年度まで

(単位:%)

	比率	算式(×100)	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
貸借対照表関係	固定資産構成比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{総資産}}$	90.1 (85.8)	90.2 (86.3)	89.8 (86.3)	90.1 (86.8)	89.5 (87.0)	89.2
	自己資金構成比率	$\frac{\text{自己資金}}{\text{総資金}}$	88.3 (84.5)	88.8 (85.0)	89.0 (85.6)	89.9 (86.4)	89.7 (86.1)	89.8
	固定比率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}}$	102.1 (101.6)	101.7 (101.5)	100.9 (100.7)	100.1 (100.4)	99.7 (101.0)	99.3
	固定長期適合率	$\frac{\text{固定資産}}{\text{自己資金}+\text{固定負債}}$	93.4 (91.7)	93.5 (92.3)	93.0 (92.0)	92.8 (92.2)	92.6 (92.6)	92.4
	流動比率	$\frac{\text{流動資産}}{\text{流動負債}}$	280.2 (221.6)	281.7 (211.9)	297.5 (218.8)	337.6 (222.7)	316.0 (214.5)	310.9
	総負債比率	$\frac{\text{総負債}}{\text{総資産}}$	11.6 (15.5)	11.2 (15.0)	11.0 (14.3)	10.0 (13.5)	10.2 (13.8)	10.1
	退職給与引当預金率	$\frac{\text{退職給与引当特定預金(資産)}}{\text{退職給与引当金}}$	50.0 (70.5)	51.9 (70.4)	50.4 (71.7)	50.0 (73.9)	50.0 (75.1)	50.0
償却引当預金率	$\frac{\text{償却引当特定預金(資産)}}{\text{償却引当金}}$	43.5 (16.6)	44.6 (17.1)	46.7 (17.7)	34.8 (19.4)	22.2 (19.5)	23.6	
消費収支関係	学生生徒等納付金比率	$\frac{\text{学生生徒等納付金}}{\text{帰属収入}}$	75.2 (73.9)	76.9 (72.0)	77.6 (72.6)	76.3 (71.3)	77.5 (74.0)	76.1
	寄付金比率	$\frac{\text{寄付金}}{\text{帰属収入}}$	1.1 (2.4)	0.9 (4.4)	1.2 (1.9)	2.4 (3.9)	1.7 (2.0)	3.0
	補助金比率	$\frac{\text{補助金}}{\text{帰属収入}}$	13.2 (11.0)	10.8 (11.1)	9.8 (11.1)	9.6 (11.0)	10.5 (11.6)	10.4
	人件費比率	$\frac{\text{人件費}}{\text{帰属収入}}$	49.8 (49.7)	51.1 (48.5)	54.1 (49.0)	52.5 (48.3)	55.4 (50.6)	57.0
	人件費依存率	$\frac{\text{人件費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	66.2 (67.3)	66.5 (67.4)	69.7 (67.5)	68.7 (67.7)	71.4 (68.4)	74.8
	教育研究経費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{帰属収入}}$	33.3 (30.4)	33.0 (30.5)	32.8 (31.5)	32.6 (31.5)	35.5 (33.2)	34.9
	管理経費比率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{帰属収入}}$	4.5 (7.0)	4.6 (6.9)	4.6 (6.9)	6.4 (7.1)	6.7 (8.9)	5.0
	消費支出比率	$\frac{\text{消費支出}}{\text{帰属収入}}$	89.2 (88.7)	93.0 (87.6)	93.4 (89.2)	93.9 (88.9)	101.9 (98.5)	98.9
	基本金組入率	$\frac{\text{基本金組入額}}{\text{帰属収入}}$	13.1 (14.9)	13.6 (16.2)	9.6 (15.4)	35.9 (15.1)	36.6 (15.0)	7.9

(注) 総資金=負債+基本金+消費収支差額 ()内は全国理工他複数学部法人平均
自己資金=基本金+消費収支差額

III 法人の概要

■名称	学校法人甲南学園		
■法人設立の年月日	大正7(1918)年12月20日		
■設置学校	甲南大学		
	◎岡本キャンパス	〒658-8501	兵庫県神戸市東灘区岡本8丁目9番1号
	◎西宮キャンパス	〒663-8204	兵庫県西宮市高松町8番33号
	◎ポートアイランドキャンパス	〒650-0047	兵庫県神戸市中央区港島南町7丁目1番20

	甲南高等学校・中学校	〒659-0096	兵庫県芦屋市山手町31番3号

■役員(平成22年3月31日現在)

理事¹

定数20~30名以内
現員30名

理事長	吉沢英成
副理事長	片岡睦夫
学長	高阪薫
校長	橋口誠
副学長	重松利彦
	鶴身潔
学外理事	片山勉
	菊池嘉人
	藤尾益也
	村津敬介
	山田純嗣
	市川典男
	伊藤勲
	乾英文
	岸勘治
	吉川精一
	武田國男
	野澤太一郎
	平生甲一
	松下正幸
	水越浩士

学内理事	
文学部長	大津真作
理工学部長	宮澤敏文
経済学部長	青木浩治
法学部長	島田茂
経営学部長	長坂悦敬
法科大学院長	渡辺顕修
会計大学院長	河崎照行
経済学部教授	岩崎晃
マネジメント学部教授	佐藤治正

監事²

定数2~3名以内
現員3名

植村武雄
北村真
中西秀夫

評議員³

定数42~61名以内
現員61名

阿久澤亮
位原美智子
伊豫田隆俊
緒方正樹
佐藤治正
都染直也
土山敏夫
西田脩

狭間宏明
美馬幸治
藍原正宜
山内守明
岩田憲明
梅村昌生
長田正道
片岡睦夫
片山勉
京谷光雄
佐藤祐康
酢谷周爾
曾根英夫
高嶋良平
立野純三
西桂二郎
藤守皓雄
細谷俊雄
松谷齊泰
市川典男
岩崎晃
岸勘治
重松利彦
鶴身潔
高阪薫
橋口誠
青木浩治

大津真作
河崎照行
島田茂
長坂悦敬
宮澤敏文
渡辺顕修
神澤雄次郎
黄朝陽
富永健嗣
舟元章
吉田昇生
利倉洋一
南海郁
岩崎邦彦
上島一泰
加藤隆久
菊池嘉人
辰巳末芳
道満善弘
藤尾益也
藤本真人
松井佐一郎
松田博志
村津敬介
山田純嗣
吉沢英成

1学校法人の決議機関は理事会であり、私立学校法は、「学校法人に理事をもって組織する理事会を置く。」「理事会は学校法人の業務を決し、理事の職務の執行を監督する。」としています。理事は理事会に参画し、学校法人の業務を決めていきます。

2監事は、理事と同じように学校法人の役員となっています。監事は監査機関であって、①学校法人の業務、②学校法人の財産の状況を監査することが主たる任務とされています。そのほか、監査報告書の作成、学校法人の業務又は財産の状況について、理事会に出席して意見を述べることその職務とされています。監事は、評議員の同意を得て理事長が選任し、監事は、監査の公正を保つために、理事、評議員又は学校法人の職員と兼ねてはならないこととされています。

3評議員会は、学校法人の重要事項について、理事長から意見を求められ、理事長に対して意見を述べる諮問機関としての役割があります。予算の決定、基本財産の処分、寄附行為の変更等の重要案件については、理事長はあらかじめ評議員から意見を聞かなければならないこととされています。

■土地と建物(平成21年5月1日現在)

土地面積

大学	275,145.03㎡
高等学校・中学校	45,791.00㎡
フランス甲南学園トゥレーヌ高等部	12,090.00㎡
その他(職員住宅等)	4,908.08㎡
土地面積総合計	337,934.11㎡

建物面積

大学	138,482.32㎡
高等学校・中学校	17,846.01㎡
フランス甲南学園トゥレーヌ高等部	6,315.84㎡
その他(職員住宅等)	1,624.75㎡
建物面積総合計	164,268.92㎡

■専任教職員数(平成21年5月1日現在)

大学・大学院・センター・研究所

	文学部	理工学部	経済学部	法学部	経営学部	知能情報学部	マネジメント学部	創造学部	サイエンス学部	スポーツ・健康科学研究センター	国際言語文化センター	EBA高等教育研究所	情報教育センター	国際交流センター	教職教育センター	先端生命工学研究所	法科大学院	会計大学院	学生相談室	合計
教授	40	21	17	16	21	9	5	7	4	5	2	1	0	2	0	21	13	1	185	
准教授	12	12	7	5	3	5	3	5	2	7	0	0	1	0	0	4	1	0	67	
講師	1	6	0	2	0	4	9	3	1	9	0	1	0	0	2	0	0	0	38	
助教	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	3	
合計	53	39	24	23	24	18	19	15	7	21	2	2	1	2	3	25	14	1	293	

※実務家教員を含む。

高等学校・中学校

教諭	契約教員	養護教諭	司書教諭	合計
52	3	1	1	57

職員

専任	嘱託	契約	合計
159	48	13	220

■学生・生徒数(平成21年5月1日現在)

大学

学部	入学定員	編入定員	収容定員	実員	備考
文学部	400	10	1,620	1,876	
理工学部	155	-	620	1,237	平成20年度定員変更(335名→195名) 平成21年度定員変更(195名→155名)
経済学部	350	-	1,400	1,692	
法学部	350	-	1,400	1,758	
経営学部	345	-	1,380	1,605	
知能情報学部	120	-	480	283	平成20年度設置
マネジメント創造学部	180	-	720	207	平成21年度設置
フロンティアサイエンス学部	35	-	140	41	平成21年度設置
EBA総合コース	-	-	-	100	
合計	1,935	10	7,760	8,799	

高等学校・中学校

学校	入学定員	収容定員	実員	備考
高等学校	200	600	627	平成21年度定員変更(215名→200名)
中学校	175	525	553	

大学院

研究科	課程	入学定員	収容定員	実員	課程	入学定員	収容定員	実員	備考
人文科学研究科	修士	26	52	39	博士後期	10	30	15	
自然科学研究科	修士	35	70	92	博士後期	8	24	8	
社会科学研究科	修士	20	40	21	博士後期	3	9	4	
フロンティアサイエンス研究科	修士	5	10	13	博士後期	1	3	1	平成21年度設置
合計		86	172	165		22	66	28	

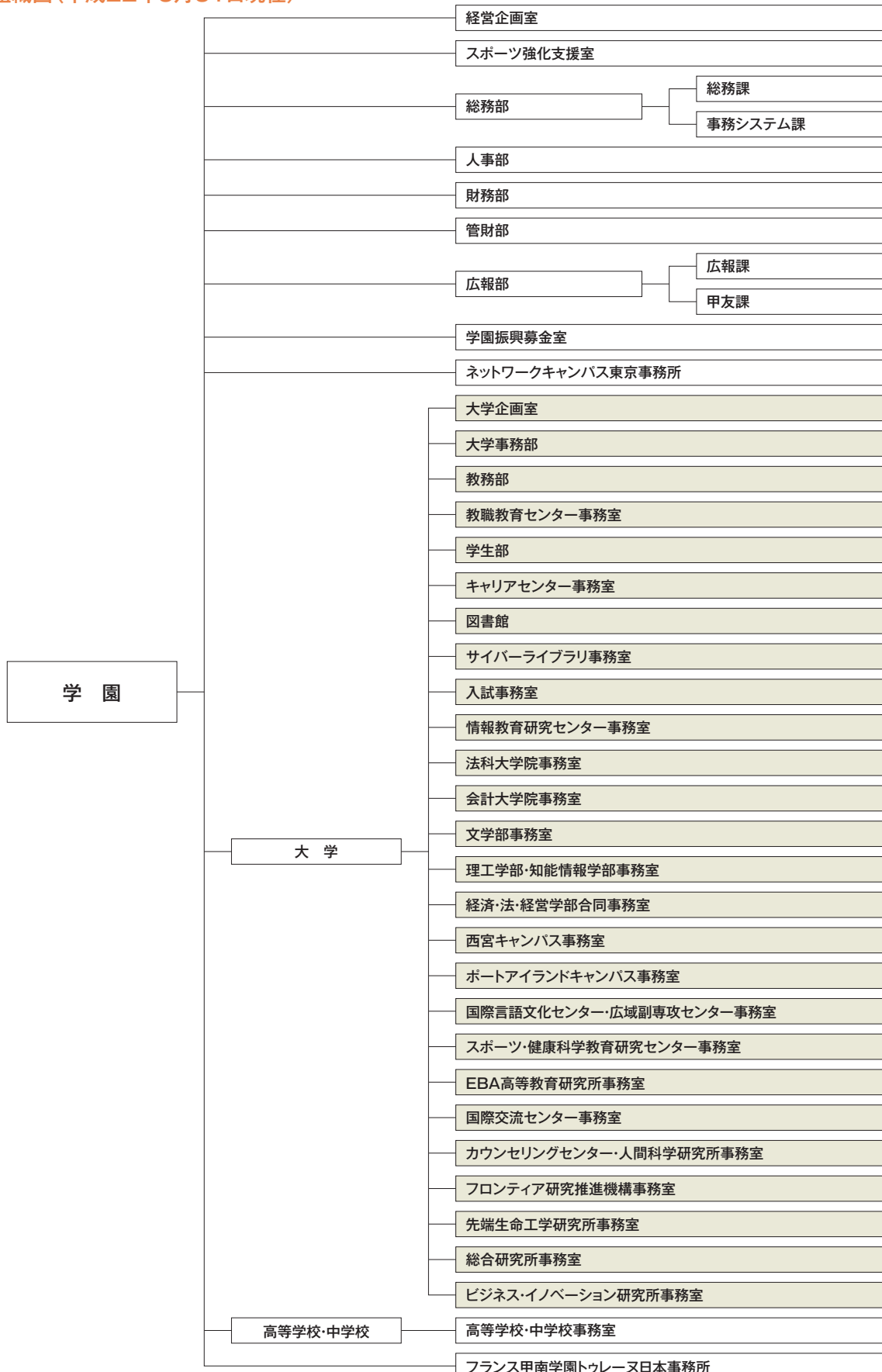
専門職大学院

研究科	入学定員	収容定員	実員	備考
法学研究科	60	180	168	
ビジネス研究科	30	60	66	
合計	90	240	234	

■卒業生累計数(平成22年3月31日現在)

7年制高等学校	871	学部	86,287
新制高等学校	10,567	大学院(修士)	1,923
		大学院(博士)	75
		専門職大学院	335

■事務組織図(平成22年3月31日現在)





TOPIC

平成21年11月文部科学省主催で開催された監事研修会の「学校法人における財務情報公開」の事例において、事業報告書で入学志願者状況を公開、財務情報について前年度と比較したグラフ、収支構成比を表した円グラフなどを用いて財務内容を分かりやすく説明している法人として資料に取り上げられました。

発行 平成22年6月

この冊子に関するお問い合わせは、下記までお願いいたします。

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1

学校法人甲南学園 総務部総務課

TEL. (078) 435-2305

FAX. (078) 435-2548

e-mail sohmu@adm.konan-u.ac.jp



**甲南大学
甲南大学大学院**

◎岡本キャンパス

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.(078)431-4341(大代表)

◎西宮キャンパス

〒663-8204 兵庫県西宮市高松町8-33
TEL.(0798)63-5741

◎ポートアイランドキャンパス

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町7-1-20
TEL.(078)303-1457
ホームページ <http://www.konan-u.ac.jp>

甲南高等学校・中学校

〒659-0096 兵庫県芦屋市山手町31-3
TEL.(0797)31-0551(代表)
ホームページ <http://www.konan.ed.jp>

フランス甲南学園トゥレーヌ高等部

<日本事務所>

〒658-8501 兵庫県神戸市東灘区岡本8-9-1
TEL.(078)431-4341(大代表)
(078)453-0115(直通)

ホームページ <http://www.t-konan.jp>